学校法人太田アカデミー

太田医療技術専門学校

厚生労働省指定養成施設

歯科衛生学科

２０２５年度　シラバス

syllabus for department of dental hygienists

OCMT
OTA COLLEGE OF MEDICAL TECHNOLOGY

授業評価の基準

授業では、以下に挙げる方法と基準により授業評価を行う。

１　授業評価の方法

各科目の学修成果は、前期及び後期末に行う筆記試験又は実技試験の得点をもって評価する。科目によっては、受講態度や課題の提出状況、小テスト、中間試験等により数値化した得点（平常点等）を試験素点に加減することで評価する（平常点等を考慮する科目はシラバスに記載する）場合もある。

また、各授業における欠席の上限を定めており、この時間を超えて授業を欠席した者には当該科目の試験の受験資格を与えず、単位不認定とする。

なお、授業開始後 30 分を経過するまでに教室に入室した者は「遅刻」、授業終了の定刻前に教室を退室した者は「早退」とし、遅刻及び早退の累計が 3 回となった場合は 1 回の欠席とする。

２　授業評価の基準

試験の結果（得点）により、以下の基準で評価する。ただし、これとは別に基準を設定して評価を行う場合には別途授業計画（シラバス）に記載し、またその旨担当教員が授業において告知する。

試験の得点	評価と単位認定
８０～１００点	評価「優」　単位を認定する。
７０～７９点	評価「良」　単位を認定する
６０～６９点	評価「可」　単位を認定する。
６０点未満	評価「不可」　単位を認定しない。

なお、本試験の得点が６０点未満だった者については再試験を実施し、再試験の得点が６０点以上だった者については、評価を「可」として単位を認定する。それ以外の者には単位を認定しない。

太田医療技術専門学校

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	実技	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	1
科目名	保健体育 □　実務経験のある教員による授業				担当者	非常勤講師		
使用教材	なし							
科目概要	保健体育教師としての実務経験を活かし、さまざまな運動・スポーツの実技を通して、心身の健康で調和的な発達を促し、健康とスポーツの自主的、主体的な実践力を育成する。また、健康とスポーツについて理解を深め、社会的、文化的価値について理解を深めるとともに、仲間とのコミュニケーシンを深めていく。							
実務経験と授業科目の関連	なし							
到達目標	１　運動やスポーツの楽しさや喜びを味わわせることができるようにする とともに、自らコミュニケーションをとって意欲的に活動することができる。 ２　生涯にわたって健康の保持増進のための自己管理能力を身に付ける とともに、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。							
評価方法基準	授業中の意欲・関心・態度　②技能　③思考・判断　④出席状況の４観点を総合的に評価する。 評価基準・・・８０点以上→Ａ、７９～７０点→Ｂ、６９～６０点→Ｃ、６０点以下は科の判断にてレポート及び補習実技にて認定する。							
成績評価のフィードバック	評価は担任を通じて伝達する。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	体育知識・実技（球技）	オリエンテーション・バレーボール	自動車校 体育館
2	体育実技（球技）	バレーボール	自動車校 体育館
3	〃	バレーボール	自動車校 体育館
4	〃	バレーボール	自動車校 体育館
5	〃	バレーボール	自動車校 体育館
6	〃	バレーボール	自動車校 体育館
7	体育的行事	球技大会	太田市民 体育館
8	体育的行事	球技大会	太田市民 体育館
9	体育的行事	球技大会	太田市民 体育館
10	体育的行事	球技大会	太田市民 体育館
11	体育実技（球技）	バスケットボール（雨天時）・グランドゴルフ	Ｔ－ｆｉｅｌｄ
12	〃	バスケットボール（雨天時）・グランドゴルフ	Ｔ－ｆｉｅｌｄ
13	〃	バスケットボール（雨天時）・グランドゴルフ	Ｔ－ｆｉｅｌｄ
14	〃	バスケットボール（雨天時）・グランドゴルフ	Ｔ－ｆｉｅｌｄ
15	〃	バスケットボール（雨天時）・グランドゴルフ	Ｔ－ｆｉｅｌｄ

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	1
科目名	心理学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	非常勤講師		
使用教材	プロが教える心理学のすべてがわかる本　（ナツメ社）　教員作成資料他							
科目概要	心理学の成り立ち，人の心の基本的な仕組み及び働き、その概観を捉えることを学ぶ。							
実務経験と授業科目の関連	臨床心理士としての経験を活かし、人間の行動や行動がどのような原理で動いているのか、また人が環境に適応しながら、よりよく生きていくために、人間にはどのような心の仕組みや働きが備わっているのかなど人間理解に必要な知識や考え方について講義する。							
到達目標	1.心理学諸分野の基礎的な知識を理解する。 2.人間の心理・社会に関する幅広い知識を得る。 3.自己や他者の行動と心理を理解する。							
評価方法基準	1.最終授業時に試験を行い、その結果60点以上を合格とする。 2.授業出席数を満たすこと。							
成績評価のフィードバック	合格点に満たない学生には、再試験を行う。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	「こころ」の歴史	心理学の歴史	
2	「こころ」の歴史	心理学の在り方	
3	人は世界をどうとらえるか	心と脳の関係	
4	人は世界をどうとらえるか	感情について	
5	心のはたらきを知る	学習、記憶について	
6	心のはたらきを知る	知能について	
7	「私らしさ」は どう決まるのか	心理学における性格について 類型論	
8	「私らしさ」は どう決まるのか	さまざまな性格テスト	
9	対人関係の心理学	セルフモニタリング 自己呈示	
10	対人関係の心理学	集団、組織、流行	
11	人間の発達	発達とは 発達理論	
12	人間の発達	ライフステージ別の発達 発達障害	
13	心のトラブルを考える	カウンセリング 心理アセスメント	
14	心のトラブルを考える	心理療法	
15	試験	試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>15</td><td>対象年次</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">文章作法</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">非常勤講師</td></tr>
<tr><td colspan="4">□　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">本校作成ワーク</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">高校卒業時までに身に付けた日本語能力について、改めて文法や助詞の使い方、慣用表現など、幅広く点検しながら社会人としてふさわしい表現について学ぶ。また、敬語の基本についても学習する。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">なし</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">１．幼い表現や学生言葉ではなく、年齢にふさわしい学術的な文章表現を身に付ける。
２．日本語の適切な使い方を点検し、語彙力を増やしながら、実習の際、レポートや日誌などにおいて適切な表現ができるようにする。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">筆記試験の得点で主な成績を付けるが、その他として授業態度や取り組み方など、学科基準により、総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">試験結果を返却し、知識不足や学習不足の部分を再確認させる。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	日本語力プレチェック	意味の違いを考え、正しい漢字を使う 間違った表現を認識しよう、漢字力チェック	（課題） 自己紹介文
	書く力を身に付けよう	読みやすく漢字を交えよう 読みやすく書こう（漢字とかなの使い分け）	
2	句読点 漢語・和語・外来語	句読点の効果的な使い方 漢語・和語・外来語の使い分け	
	語彙力アップを目指そう	意味する言葉の熟語を挙げてみよう 理解語彙と使用語彙	
3	学術的な文章	学術的な文章にふさわしくない表現を探そう	
	書いた文を見直そう①	主語と述語のよじれを修正する 係り受け、推敲、文体不統一、二重表現	
4	書いた文を見直そう②	いろいろな言葉遣いや言い回し 語の使い方を確かめよう	
	書いた文を見直そう③	文の成分（主語・述語・修飾語）、品詞 どの部分が修飾しているのかを考えよう	
5	やさしい言葉を正しく使う	使い慣れた言葉の語法やニュアンスの点検 助詞の活用	
	順接と逆接	文章を書き進め方を点検する 順接と逆接、列挙、「てにをは」の使い方	
6	述語の共用 文の基本形①	述語の共用とは 文の基本形①（目的語＋述語）	
	文の基本形② 読み手を考えた構成	文の基本形②（主語＋述語） 主語の位置を考えて書く	
	修飾語の位置 語順を考えよう	読み手の理解と共感を得るための書き方 語順に気を配って書く	
7	伝えるべきことを絞り込む	読み手が正しく理解できる書き方 重複を避ける、削れる言葉を削る	
	敬語の使い方	尊敬語、謙譲語、丁寧語を理解しよう 社会人としてふさわしい敬語の使い方	
8	確認テスト	学習の習熟度を筆記試験を行い、評価する	筆記試験

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	1
科目名	歯科英語 □　実務経験のある教員による授業				担当者	非常勤講師		
使用教材	歯科英語の練習帳～歯の健康づくりをサポートする英語表現～（萌文書林）							
科目概要	歯科医院での受付や治療場面、日々のケアなどにおける英語表現を理解する。語彙・文法に加えて、コミュニケーションを重視して、リスニング能力の向上も目指す。世界的に用いられている英語を使って必要な情報を伝達できるようにすることを目指す。							
実務経験と授業科目の関連	なし							
到達目標	１．歯科医院における受付や治療場面で用いられる基本的な語句・表現を習得する。 ２．歯に関する日々のケア場面で用いられる語句・表現を習得する。 ３．基本的な表現をもとにして、新たな場面での表現の意味を理解できる。 ４．基本的な表現をもとにして、新しい表現を用いて意図することを表現できる。							
評価方法基準	期末試験の結果に平常点（毎回の講義終了時に行う小テストと取り組み状況を数値化したもの）を加味して評価する。総合評価で60点以上の者に単位を認定する。							
成績評価のフィードバック	担任教員を通じて伝達する。							
事前準備留意点等	□　なし ☑　あり 講義時には必ず英和辞書を持参すること（電子辞書でも可）。 第２回以降の講義については、次回の講義内容を予告するので、事前に予習して臨むこと。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	オリエンテーション 高校基礎レベルの英語復習	プレイスメントテスト	
2	Unit 1	電話予約への応対	
3	Unit 2	受付：来院目的と既往症の確認	
4	Unit 3	治療前・治療中の指示	
5	Unit 4	受付：治療後の対応 （次回予約の説明・会計）	
6	Unit 5	前回治療後から今回までの経過確認	
7	Unit 6	レントゲン撮影前の準備	
8	Unit 7	歯の手入れ （齲歯予防・ホワイトニング）	
9	Unit 8	正しい歯磨きの指導	
10	Unit 9	喫煙と食生活が与える影響	
11	Unit 10	歯周病の予防と治療	
12	Unit 11	乳幼児の齲触予防	
13	Unit 12	「歯と口の健康週間」活動	
14	Unit 13	デイケアセンターにて （高齢者への口腔ケア指導）	
15	まとめ	全体のまとめ	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	1
科目名	秘書概論 □　実務経験のある教員による授業				担当者	非常勤講師		
使用教材	秘書検定クイックマスター３級　改訂新版（早稲田教育出版） 秘書検定３級実問題集　２０２５年度版，本校作成ワーク							
科目概要	２年次の実習を控え、社会人としての基本的なビジネスマナーと対人コミュニケーション（立ち居振る舞い，敬語の使い方等）を身に付け，実習の際に礼儀正しい行動ができるよう知識習得のための講義を行う。 11月の秘書検定受験後は，実習の心構えの土台となる対人コミュニケーションについて講義を通して学ぶ。							
実務経験と授業科目の関連	なし							
到達目標	11月の秘書検定３級受験の合格を目指すが，以下を基本目標とする。 １．自己中心的な幼い考え方ではなく，相手への配慮のできる行動ができること ２．基本的な敬語の使い方やビジネスマナーを覚え，電話応対，対人コミュニケーションの際に活用できるようにすること							
評価方法基準	秘書検定３級の合否で主な成績を付けるが、検定後の授業内容の理解度を確認する試験も最終回の授業内で実施する。その他として授業態度や取り組み方などを鑑み，最終的には学科基準により総合的に評価する。							
成績評価のフィードバック	秘書検定の結果を返却し，知識不足や学習不足の部分を再認識させる。対人コミュニケーションの試験については，点数とコメントを伝え、対人コミュニケーションの理解度を認識できるようにする。							
事前準備留意点等	□　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	環境整備	オフィスの環境管理，整理整頓の仕方	
2	資質	社会人・職業人としての心構え 補佐役としての心得	
3	職務知識①	機密保持，仕事に対する基本姿勢 必要とされる能力	
4	職務知識②	定型業務・非定型業務 上司の補佐のしかた	
5	職務知識③	独断専行・越権行為	
6	秘書と人間関係	話し方・聞き方の応用，注意・忠告のしかた	
7	直前問題演習①	過去問題演習・解説	
8	直前問題演習②	過去問題演習・解説	
9	直前問題演習③	過去問題演習・解説	
10	直前問題演習④	過去問題演習・解説	
11	対人コミュニケーション①	アサーティブコミュニケーション	
12	対人コミュニケーション②	対人コミュニケーション 傾聴する姿勢	
13	対人コミュニケーション③	ケーススタディ	
14	対人コミュニケーション まとめ	これまでの復習（講義内容復習問題） 解答・解説	
15	確認テスト	後期に学習した内容の復習	試験

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	演習	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	15	対象年次	1
科目名	情報処理 □　実務経験のある教員による授業				担当者	川邉　昌一		
使用教材	30時間でマスターOffice2021（実教出版）							
科目概要	歯科衛生士として実践に必要な情報の収集や分析ができるよう、また、医療施設において必要なコンピュータ操作ができるように、パソコンの基礎から、ワープロソフトでの文書作成、プレゼンテーションソフトでのプレゼンテーションの作成方法を学ぶ。							
実務経験と授業科目の関連	なし							
到達目標	1. パソコンの基礎知識(OS、ブラウザ、操作方法)の習得 2. ワープロソフトで実務的文書(ビジネス文書、連絡・報告書など)の作成ができる 3. プレゼンテーションソフトで効果的なプレゼンテーション資料を作成できる							
評価方法基準	ワープロソフト、プレゼンテーションソフト、それぞれ単元終了後に、与えられた課題をもとに作品を完成させ提出。 クリアしなければならない項目が６０％以上で合格。							
成績評価のフィードバック								
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	コンピュータ基礎	オリエンテーション OS(windows11)の基礎、ブラウザの使い方	
2	Word基礎	wordの画面構成 日本語入力システム・文字入力	
3	Word応用	ビジネス文書の構成、文書の装飾 表、画像や図形を活用した文書の作成	
4	Wordテスト	問題に沿っての文書作成 解説	
5	PowerPoint基礎	PowerPointの画面構成 スライドの作成	
6	powerpoint応用	アニメーションのつけ方 スライドショーの設定	
7	PowerPointテスト	問題に沿ってプレゼンテーション作成 問題完全解説	
8	まとめ	振り返り、課題最終提出	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>後期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義・演習</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="5">医療事務管理学科</td><td>配当時間</td><td>8</td><td>対象年次</td><td>1</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td colspan="5">介護学
□　実務経験のある教員による授業</td><td>担当者</td><td colspan="2">井上 千帆</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="9">オリジナル教材
日本医療企画　内田 千恵子編著「はじめて学ぶ介護」一部使用</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="9">現代の高齢社会において、歯科衛生士は重要や役割を果たしている。地域包括ケアシステムの位置づけとともに、介護保険制度では口腔機能に係る多くの加算が設定されている。活躍の場の拡大が見込まれることから、高齢者や障害児者の特性や対人援助の手法を学ぶことにより、多岐にわたる患者への対応を学ぶ。また、介護技術の基本や身体介護の注意すべき点を習得する訓練を行う。多様な心身機能の患者に対応し安心、かつ安全な介助方法を講義する。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="9">なし</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="9">１.高齢社会の現状を理解し、地域包括ケアシステムや在宅医療連携拠点を知ることができ、介護とのつながりを知ることができる。
２.対人援助の基礎を学び、障害別の具体的なコミュニケーション能力や介助方法を理解することができる。
３.基本的な介護技術の習得により、安全で安楽な移乗・移動介助ができる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="9">期末試験として筆記試験を実施する。授業の取り組みや出席率を10％、筆記試験を90％とし、総合的に60点以上の者に単位を認定する（学科の規定に準ずる）。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="9">毎回の授業において理解度や不明な点に関するアンケート調査を実施し、次回の授業にて解説、授業内容への反映を行い理解を深める。また、筆記試験後に返却、今後の歯科と介護との連携の重要さを感性として残して欲しい。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="9">□　なし
☑　あり
初回時に「介護」に対するイメージを表現して欲しい。授業毎においては、介護の楽しさを感じて欲しい。</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	ガイダンス 日本における少子高齢化	「介護学」で学ぶこと、2025年問題とは、日本における社会保障制度の問題点	
2	対人援助の基本 障害別の対人援助①	対人援助やコミュニケーション技術とは 視覚障害者に対する援助方法と応用 【演習】点字の法則を理解しよう	
3	障害別の対人援助②	聴覚障害者に対する援助方法と応用 【演習】手話で会話をしてみよう	
4	障害別の対人援助③	言語障害への理解とコミュニケーション技術 【演習】言語障害って？	
5	障害別の対人援助③	認知症の理解と援助技術、ユマニチュード 【演習】これってやっても良いの？	
6	これからの福祉について 介護技術の基本	介護の概念、介護保険と歯科衛生士との関連 ボディメカニクスの原則と基本	
7	介護技術の応用	視覚障害者に対する移動介助の体験 車いすからユニットへの安全な移乗介助方法	
8	まとめ	筆記試験（論文）	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	1
科目名	歯科衛生学総論 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	金子　聖美		
使用教材	歯科衛生学総論　　医歯薬出版							
科目概要	保健・医療・福祉に関わることの意義や専門職として必要な知識、歯科疾患および歯科医療の概要を学ぶ。							
実務経験と授業科目の関連	歯科衛生士の実務経験を活かし、歯科衛生士の業務内容・歴史・職域・関係法規および保健・医療・福祉関係職種の概要、歯科衛生士を取り巻く環境について解説する。							
到達目標	1.歯科衛生業務の構成要素を説明できる。 2.対象者を第一に考えた健康づくりを支援する理由を説明できる。 3. 業務記録の意義を説明できる。 4.保健・医療・福祉分野の専門職の業務を概説できる。							
評価方法基準	期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。							
成績評価のフィードバック	担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	オリエンテーション	あなたの目指す歯科衛生士とは	
2	第１章　歯科衛生学とは	健康の考え方・歯科衛生活動の対象者	
3	第２章　歯科衛生士の歴史	歯科衛生士の誕生	
4	第３章　歯科衛生活動のための理論	予防の概念	
5	第３章　歯科衛生活動のための理論	科学的思考（演習）	
6	第４章　歯科衛生過程	歯科衛生過程について	
7	第４章　歯科衛生過程	歯科衛生過程について（演習）	
8	第５章　歯科衛生士法と歯科衛生業務	戴帽式参加	
9	第５章　歯科衛生士法と歯科衛生業務	歯科衛生士法	
10	第５章　歯科衛生士法と歯科衛生業務	安全管理	
11	第６章　歯科衛生士と医療倫理	医の倫理と患者の権利	
12	第６章　歯科衛生士と医療倫理	インフォームドコンセント	
13	第７章　歯科衛生士の活動と組織	歯科衛生活動と組織	
14	第８章　海外における歯科衛生士	アメリカ・韓国・北欧・イギリス	
15	試験	前期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">歯科臨床概論</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">非常勤講師</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">歯科衛生士のための歯科臨床概論　　医歯薬出版</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯科臨床の流れやその特異性について、また歯科保存学、歯周病学等の各臨床的概要を理解する。
さらに、医療行為における感染症対策、医療事故防止についても知識を深める。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科医師の実務経験を活かし、歯科医療について疾患の種類やその特異性について、またそれらの治療の流れについての概要を解説する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.歯科医療の特殊性、歯科患者の心理・患者様への対応について理解する。
2.歯科医療の現場、また感染症の取り扱い方について説明できる。
3.歯科臨床における歯科衛生士の役割について理解する。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	歯科診療とは	歯科臨床の場に関わる人々、対象者	
2	歯科診療所	歯科診療所の紹介 スタッフ・安全管理	
3	歯科診療所における業務	歯科診療所全体に関わる業務	
4	歯科診療の流れ	歯科診療所の１日	
5	ライフステージと歯科診療	さまざまなライフステージへの関わり	
6	歯科診療所で行うこと	主な診療の流れ	
7	診査・検査・前処置	バイタルサインの確認・画像歯周検査 痛みのコントロール	
8	小児歯科	小児歯科とは	
9	歯科矯正	矯正歯科治療の概要	
10	口腔外科	口腔外科診療の流れ、外傷とは	
11	歯科保存	歯科保存とは	
12	歯周治療	歯周治療とは	
13	歯科補綴	歯科補綴の概要	
14	障害者歯科 高齢者歯科	障害者歯科 高齢者歯科の特徴	
15	試験	前期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">歯科保存修復学</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">非常勤講師</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">歯の硬組織・歯髄疾患保存修復・歯内療法　　医歯薬出版</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯の硬組織疾患の種類や修復法、窩洞の構成要素や保存修復治療における診療のステップ、各修復時の診療補助業務や歯髄の保護方法・保存修復法の種類について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科医師の実務経験を活かし、齲蝕や歯髄疾患の病態および各疾患による欠損部の修復法やその材料についてや、歯科保存治療における歯科衛生士の役割について講義する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">歯に生じる様々な疾患を理解し、その症状、診断法及び治療法を理解する。また、使用される薬剤などの性質も理解する。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
☐　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	歯の保存療法の種類	歯の保存の意義と対象となる硬組織疾患	
2	口腔検査	口腔内検査の基礎知識と前準備・医療面接	
3	口腔検査	現病の検査・各種検査法の違いと特徴	
4	保存修復の概要	歯の硬組織疾患の種類と病態	
5	保存修復の概要	窩洞の構成要素・窩洞の分類	
6	保存修復の概要	保存修復治療における診療のステップと前準備	
7	保存修復の概要	歯の切削器具・方法	
8	保存修復の概要	歯髄の保護方法・保存修復法の種類	
9	直接法修復	直接法修復・コンポジットレジン修復とは種類と接着の基礎	
10	直接法修復	光重合型コンポジットレジン修復の特徴と手順	
11	直接法修復	セメント修復・歯科用セメントの種類と用途	
12	間接法修復	間接法修復・インレーアンレー修復の手順および技工操作の基礎知識	
13	間接法修復	ベニア修復の種類・適応症と禁忌症	
14	間接法修復	合着材および接着材	
15	試験	前期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">歯科補綴学</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">非常勤講師</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">咀嚼障害・咬合異常　　医歯薬出版</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯科衛生業務を行うために必要な歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部欠損に対する咬合回復の治療法を理解する。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科医師の実務経験を活かし、補綴治療の補助のために必要な検査や治療手順および器材の使用法を解説する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療について説明できる。
2.補綴装置の種類とその構造について説明できる。
3.補綴歯科治療における検査、診断、器材について説明できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	歯科補綴とは	歯科補綴の概要	
2	補綴歯科治療	歯科補綴の概要・欠損に伴う口腔内変化	
3	歯科補綴治療の基礎知識	補綴装置、歯科補綴治療の基礎知識	
4	補綴歯科治療の実際	補綴歯科治療における検査、診断	
5	クラウン、ブリッジ治療の実際	クラウン、ブリッジ治療の流れ①	
6	有床義歯治療の実際	クラウン、ブリッジ治療の流れ②	
7	インプラント治療の実際	有床義歯治療の流れ①	
8	補綴歯科治療の用いられる器材	有床義歯治療の流れ②	
9	補綴歯科治療における歯科技工	インプラント治療の流れ　①	
10	検査診断の業務	インプラント治療の流れ　②	
11	治療時の業務	特殊な口腔内装置を用いる治療	
12	器材管理	補綴歯科治療における機材の管理	
13	まとめ	顎関節の構造、咬合、咬合位、咬合高径、FB	
14	まとめ	ゴシックアーチ描記法、咬合器、顎関節症	
15	試験	前期試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	2
科目名	口腔外科・麻酔学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	非常勤講師		
使用教材	顎・口腔粘膜疾患口腔外科・歯科麻酔　　医歯薬出版							
科目概要	顎・口腔領域に生じる疾患の特徴、症状、診断法および治療法を解説する。また、口腔外科・歯科麻酔の臨床業務における患者管理と救急蘇生および周術期の健康管理と歯科衛生士のかかわりについて理解する。							
実務経験と授業科目の関連	歯科医師の実務経験を活かし、歯科衛生士業務に必要な顎・口腔領域に生じる疾患の特徴、症状、診断法および治療法を解説する。							
到達目標	1. 顎・口腔領域に生じる各種疾患を大きく分類できる。 2. 先天異常と発育異常の症状と治療法を概説できる。 3. 歯の外傷、歯槽骨及び顎骨骨折、軟組織損傷の症状と治療法を概説できる。 4.麻酔の目的を説明できる。							
評価方法基準	各期末に筆記試験を行う。また、小テスト、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をC							
成績評価のフィードバック	担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	口腔外科とは	口腔外科の概要・基礎疾患と歯科治療	
2	歯科で問題となる 基礎疾患対応	顎・口腔領域の先天異常と歯の発育異常	
3	顎・口腔領域の 損傷機能障害	顎・口腔損傷および機能障害、口腔粘膜の病変	
4	顎・口腔領域の 疾患	顎・口腔領域の化膿性炎症疾患、顎骨周囲 組織の炎症	
5	顎・口腔領域の 疾患	顎・口腔領域の嚢胞性疾患	
6	顎・口腔領域の 腫瘍	腫瘍および腫瘍類似疾患、周術期の口機能管理	
7	唾液腺疾患	唾液性疾患の種類	
8	神経疾患	口腔領域の神経疾患	
9	口腔外科診療の 歯科衛生士の業務	口腔外科診療における歯科衛生士業務	
10	歯科麻酔	歯科治療における歯科麻酔	
11	麻酔	全身麻酔・術中管理について	
12	救急蘇生	救急蘇生法	
13	口腔外科処置	口腔外科処置の機材管理、歯科衛生士が行うプロフェッショナルケア	
14	まとめ	まとめ	
15	試験	前期試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	2
科目名	小児歯科学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	非常勤講師		
使用教材	歯科衛生士講座　小児歯科学							
科目概要	歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療について理解する。							
実務経験と授業科目の関連	歯科医師の実務経験を活かし、歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的発育段階とその障害について、また心理的特徴や先天性疾患について講義する。							
到達目標	1.小児の正常な身体的成長発育とその障害を説明できる。 2.成人歯科と小児歯科の違いを説明できる。 3.各年齢における小児の正常な心理的成長発達とその障害を説明できる。 4.小児の先天性疾患を説明できる。							
評価方法基準	期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。							
成績評価のフィードバック	担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	小児歯科とは	小児歯科学概論	
2	小児と歯科治療	小児の特徴	
3	小児の歯列、咬合	発育段階と口腔変化	
4	まとめ	小児の特徴まとめ	
5	小児における診療体系	小児における診療体系、診察など	
6	小児の歯科疾患	う蝕、歯周疾患、口腔軟組織の異常	
7	小児歯科診療	小児のう蝕、修復治療、歯内療法	
8	まとめ	小児歯科疾患のまとめ	
9	小児の外傷、咬合誘導	外傷処置、予防、保隙の種類	
10	まとめ	小児の治療についてまとめ	
11	まとめ①	全体まとめ①	
12	まとめ②	全体まとめ②	
13	まとめ③	全体まとめ③	
14	まとめ④	全体まとめ④	
15	試験	前期試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	2
科目名	歯科矯正学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	非常勤講師		
使用教材	咀嚼障害・咬合異常　　医歯薬出版							
科目概要	歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状および治療法について理解する。							
実務経験と授業科目の関連	歯科医師の実務経験を活かし、不正咬合の原因と種類について、またその障害と矯正治療の目的および治療法について講義する。							
到達目標	１.顔面および歯・歯列の成長発育とその評価を説明できる ２.不正咬合の原因と種類を列挙できる ３.不正咬合による障害と矯正治療の目的を説明できる ４.矯正治療に用いる器材とその取扱いを説明できる							
評価方法基準	期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。							
成績評価のフィードバック	担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	矯正歯科治療の概論	歯科矯正学と治療の目的	
2	正常咬合と不正咬合	正常咬合、不正咬合の分類、原因	
3	矯正歯科診断	必要な検査、症例分析	
4	矯正力、顎整形力、保定	歯の移動、固定、器械的、機能的矯正力	
5	矯正装置	固定式矯正装置、機能的矯正装置	
6	矯正装置	拡大装置、顎外固定装置	
7	矯正装置	口腔習癖除去装置、保定装置	
8	上顎前突前後的関係不調和	Ⅰ級不正,Ⅱ級不正１類、２類,Ⅲ級不正	
9	上下顎垂直的関係不調和	過蓋咬合、開咬	
10	口腔顔面の形成異常と変形	口唇　・口蓋裂、先天異常、顎変形症	
11	矯正治療時のトラブル	う蝕、歯周疾患、歯肉炎、トラブル対応、顎関節歯根吸収	
12	矯正歯科診療の業務	矯正用器具、材料の準備と取扱い	
13	口腔保健管理	口腔保健管理、装置の説明、保健指導	
14	口腔筋機能療法	ＭＴＦの指導法、用いる器具、効果	
15	試験	前期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">歯内療法学</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">非常勤講師</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">歯の硬組織・歯髄疾患保存修復・歯内療法　　医歯薬出版</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯科保存学の一分野としての歯内療法の意義や術式を理解する。根管治療と歯髄の保存療法についての知識を深める。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科医師の実務経験を活かし、う蝕、外傷等の硬組織疾患、それに継続して起こる歯髄疾患等の予防、治療及び研究について解説する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患の分類と症状について理解する。
2.歯髄保存療法、歯髄の除去療法について説明できる。
3.根管治療、根管充填、歯の外傷について説明できる。
4.歯内療法における歯科衛生士の役割について説明できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	歯内療法の概要	歯内療法とは	
2	歯内療法の概要	歯内療法領域の主な疾患の概要と原因	
3	歯髄保存療法	歯髄鎮痛消炎療法と歯髄鎮痛消炎薬 覆髄法	
4	歯髄の除去法	歯髄切断法 抜髄法	
5	根管治療	根管治療の基本概念・術式	
6	根管充填	根管充填の目的	
7	外科的歯内療法	外科的歯内療法の概要・適応症・術式	
8	歯の外傷	歯の外傷の概要・分類・処置	
9	歯内療法における安全対策	歯内治療用器具の誤嚥と気管内吸引 予防と対処法	
10	歯内療法における 歯科衛生士の役割	検査・診断時の業務	
11	歯内療法における 歯科衛生士の役割	歯髄処置時の診療補助業務	
12	歯のホワイトニング	ブリーチング	
13	全体のまとめ	全体のまとめ	
14	全体のまとめ	復習	
15	試験	前期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">歯周療法学</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">非常勤講師</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">歯周病学　　医歯薬出版</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯周病の治療法の基本を学び、歯周組織の解剖、歯周病に関連する病理学、微生物学の知識を整理して理解を深める。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科医師の実務経験を活かし、歯科衛生業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を解説する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.　歯周病の種類と症状、検査法と検査結果を説明できる。
2.　歯周治療の流れを説明できる。
3.　歯周治療の術式と適応症を説明できる。
4.　歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	歯周病学とは？	歯周病の基礎知識	
2	歯周疾患の現状と治療	歯周治療の現状と歯科衛生士の業務	
3	歯周組織	正常な歯周組織と構造と機能	
4	歯周疾患	歯周病の原因、分類	
5	歯周治療の実際	歯周治療の進め方	
6	歯周治療の実際	歯周疾患の診査	
7	歯周基本治療	歯周基本治療の目的と効果	
8	歯周外科治療	歯周外科治療の目的と効果	
9	歯周治療としての リハビリテーション	歯周治療におけるリハビリテーションとは？	
10	メンテナンス	メンテナンスの重要性とその意義	
11	歯周治療における 歯科衛生士業務	歯周治療の流れと歯科衛生士	
12	歯周治療における 歯科衛生士業務	スケーリング・ルートプレーニング	
13	歯周治療における 歯科衛生士業務	歯周治療用器材の滅菌、消毒、管理	
14	まとめ	まとめ	
15	試験	前期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">高齢者歯科学</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">非常勤講師</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">高齢者歯科　（医歯薬出版）</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯科衛生業務を行うために必要な高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科医師の実務経験を活かし、全身の疾病および加齢による変化や、高齢者における経口摂取の重要性ならびに身体的、心理的特徴と歯科診療上の留意点、歯科衛生士の役割について講義する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.高齢者の全身疾患と口腔疾患の特徴を説明できる
2.高齢者の歯科治療時における介助と安全管理を説明できる</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">定期試験の点数ならびに出席点数の合計で60点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	高齢社会と健康	高齢者をとりまく社会環境について	
2	高齢者と法制度	高齢者にかかわる法制度について	
3	高齢者とは	高齢者の身体的特徴・精神的特徴について	
4	口腔咽頭の加齢変化	加齢に伴う顎口腔系の変化について①	
5	口腔咽頭の加齢変化	加齢に伴う顎口腔系の変化について②	
6	高齢者に多い全身疾患	サルコペニア、フレイルについて	
7	リスク評価と管理	高齢者の生活機能の評価と栄養状態について	
8	高齢者の歯科治療	高齢者の歯科治療と安全性について①	
9	高齢者の歯科治療	高齢者の歯科治療と安全性について②	
10	口腔ケア	高齢者への口腔健康管理について	
11	口腔ケア	有病者の口腔健康管理について	
12	在宅訪問診療の概要	歯科訪問診療について	
13	摂食・嚥下の機能	摂食・嚥下機能のメカニズムについて	
14	リハビリテーション	高齢者・障害者の摂食嚥下リハビリテーション	
15	試験	前期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">障碍者歯科</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">非常勤講師</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">障害者歯科　（医歯薬出版）</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯科衛生業務を行うために必要な障害者（児）の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科医師の実務経験を活かし、スペシャルニーズのある人たちへの専門性の高い歯科医療の支援が求められるようになってきた社会変化に対応できるような、障害者への医療的、社会的、共感的理解を深めるために必要な知識について解説する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.障がい者の歯科治療時における介助と安全管理を説明できる
2.障がいの種類・歯科的特徴および歯科保健医療の留意点を説明できる</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">定期試験の点数、小テスト、ならびに出席点数の合計で60点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	障害者の概念	障害の定義・分類（身体・知的・精神・発達障害）/障害の社会的背景と歴史的変遷/歯科衛生士の役	
2	障害児者の身体的特徴	障害児者の運動機能・感覚機能の制限/歯科治療時の考慮点	
3	障害児者の精神的・心理的特徴	知的障害・発達障害・精神障害の特徴/治療時の心理的対応	
4	保健・医療・福祉制度の基礎	日本の保健・医療・福祉制度/障害者手帳・医療補助制度/障害者歯科医療の現状	
5	障害の種類と歯科的特徴（1）	身体障害（脳性麻痺・視覚障害・聴覚障害など）と歯科治療への影響	
6	障害の種類と歯科的特徴（2）	知的障害・発達障害・精神障害と歯科治療時の注意点	
7	障害児者の歯科治療の特殊性	（1）障害者歯科における基本的な治療法/コミュニケーションの工夫	
8	障害児者の歯科治療の特殊性	（2）治療技術（行動調整・鎮静法・全身麻酔）/治療中のリスク管理	
9	障害児者への対応（1）	障害児者との信頼関係の構築/声掛けや説明の工夫	
10	障害児者への対応（2）	家族・支援者との連携/他職種とのチーム医療	
11	口腔衛生管理（1）	障害児者の口腔衛生の課題/自立支援を目的としたケア方法	
12	口腔衛生管理（2）	ケアプランの作成/支援者と家族の協力体制	
13	摂食嚥下機能と口腔機能管理	摂食嚥下機能の評価・改善方法/嚥下リハビリテーションの基礎	
14	総まとめと理解度確認	単元の復習/理解度確認テスト/振り返り質・疑応	
15	試験	試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>15</td><td>対象年次</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">歯科放射線学</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">非常勤講師</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">歯科放射線　医師薬出版</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯科衛生士業務に必要な放射線とその性質、取り扱い、放射線治療についての関わりについて理解する。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科医師の実務経験を活かし、歯科衛生士業務に必要な放射線とその性質、放射線が人体へ与える影響および放射線防護について、また口内法エックス線撮影やパノラマエックス線撮影、その他画像検査方法についてと歯科衛生士の補助業務や放射線取り扱い、放射線治療についての関わりについて講義する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.☒科医療と放射線、エックス線画像の形成について説明できる。
2.☒科におけるエックス線検査についてその目的や検査機種を説明できる。
3.☒内法やパノラマエックス線写真の患者誘導や位置づけについて理解し、
衛生士の役割を概説できる。
4.☒査画像の保管・観察および整理について理解できる。
5.☒射線治療と口腔管理についての関わりについて理解できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">各期末に筆記試験を行う。また、授業ごとにFormsを用いた確認テストで正答率についても評価し、生徒ごとに各自苦手・正答率の低い問題について課題を提案し解決するためのレポート等を提出する。総合的に60点異常得点したものに単位を認定する。80点以上をA,70～79点をB,60～69点をCの評価とし、60点未満の生徒は再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。再試験対象者については、学籍番号のみを掲示する</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	歯科医療と放射線	エックス線写真および画像診断 放射線の性質や人体への影響・防護について	
2	エックス線画像の形成	エックス線の発生 フィルムとデジタル画像の特徴	
3	歯科治療とエックス線検査	口内法撮影、パノラマエックス線撮影、 頭部規格撮影、その他の画像検査	
4	撮影の実際と撮影補助	患者の位置づけ 配慮が必要な患者の撮影　感染予防	
5	写真処理と画像保管	フィルム画像の現像と定着 デジタル画像処理と規格（DICOM）	
6	放射線治療と口腔管理	放射線治療による有害事象、口腔管理	
7	まとめ	前期授業のフィードバック	
8	試験	前期試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>3</td><td>開講時期</td><td>通年</td><td>形態</td><td colspan="2">講義・演習</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>90</td><td>対象年次</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">歯科予防処置Ⅰ</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">西山　裕佳</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">教科書（最新 歯科衛生士教本　歯科予防処置・歯科保健指導）
プリント</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯や口腔の疾患を予防し健康な口腔環境を獲得するために、歯科衛生士が学ぶべき必要な基礎知識を習得する。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科衛生士の実務経験を活かし、う蝕や歯周病などの口腔疾患及び基本的な予防のための歯石除去法などの基礎知識や術式、態度について解説する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">歯科予防処置の内容を理解する
口腔の基礎知識を理解する
歯周病の基礎知識を理解する
歯科衛生アセスメントを理解できる
検査、スケーリング、PMTC、術後洗浄について理解する</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	オリエンテーション	教科書の歯科予防処置の内容を確認する	
2	歯科予防処置の 法的な位置づけ	定義・法的な位置づけ、内容	
3	歯科予防処置の 概要	歯周病の予防の概念	
4	口腔の基礎知識	正常な口腔、歯周組織	
5	口腔の基礎知識	歯冠と歯根の形態	
6	歯周病の基礎知識	口腔内の付着物と沈着物（プラーク・歯石）	
7	歯周病の基礎知識	歯周病の分類、進行プロセス、起炎性因子	
8	歯科衛生アセスメント	対象者・口腔内からの情報収集	
9	歯科衛生アセスメント	分析のための歯数（歯周疾患指数）	
10	歯科衛生アセスメント	分析のためのデータ（画像） 歯周病に関連する検査	
11	歯科衛生介入のための 歯科予防処置	スケーリング (手用スケーラーの構造、把持法、基本の操作)	
12	歯科衛生介入のための 歯科予防処置	スケーリング(基本姿勢、手首の動き)	
13	歯科衛生介入のための 歯科予防処置	シャープニング	
14	テスト前復習	前期まとめ	
15	前期試験	前期で学習した歯科予防処置の内容	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>3</td><td>開講時期</td><td>通年</td><td>形態</td><td colspan="2">講義・演習</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>90</td><td>対象年次</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">歯科予防処置Ⅱ</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">西山　裕佳</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">教科書（最新 歯科衛生士教本　歯科予防処置・歯科保健指導）
プリント</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯科予防処置の基礎知識を学び、歯や口腔の疾患の予防のための技術、態度を身につける。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科衛生士の実務経験を活かし、歯石除去技術を相互実習で体験させ、さらに超音波スケーラー、エアスケーラーの使用法や術前後の処置、器材の後始末、メインテナンスの手技の演習及び解説により知識の統合を図る。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">歯科予防処置の内容を理解する
口腔の基礎知識を理解する
歯周病の基礎知識を理解する
歯科衛生アセスメントを理解できる
検査、スケーリング、PMTC、術後洗浄について理解する</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8"></td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	オリエンテーション	１年次総復習	
2	実習	㋖キュレットスケーラー復習 ⑨右下４－７頬側行き　練習・テスト	
3	実習	㋖⑩右下４－７頬側帰り　練習・テスト 中央　練習	
4	実習	㋖⑪左下４－７舌側行き　練習・テスト	
5	実習	㋖⑫左下４－７舌側帰り　練習・テスト	
6	実習	㋖⑬右下４－７舌側行き　練習・テスト	
7	実習	㋖⑭右下４－７舌側行帰り　練習・テスト	
8	実習	㋖⑮⑯左下４－７唇側行き・帰り 練習・テスト	
9	実習	㋖⑰左上４－７口蓋側行き　練習・テスト	
10	実習	㋖⑱左上４－７口蓋側帰り　練習・テスト	
11	実習	㋖⑲⑳右上４－７頬側行き・帰り　練習・テスト	
12	実習	㋖㉑㉒右上４－７口蓋側行き・帰り 練習・テスト	
13	実習	㋖㉓㉔右上４－７口蓋側行き・帰り 練習・テスト	
14	実習	㋖㉕㉖左上頬側４－７頬側行き・帰り 練習・テスト	
15	試験	前期試験	

回	単元	内容	備考
16	実習	相互実習　PMTC	
17	実習	相互実習　PMTC	
18	相互実習前学習	相互実習について(プロービング・動揺度)	
19	実習	相互実習　プロービング・動揺度	
20	実習	相互実習　プロービング・動揺度	
21	相互実習前学習	相互実習について(超音波スケーリング)	
22	実習	相互実習　超音波スケーリング	
23	実習	相互実習　超音波スケーリング	
24	実習	相互実習　PMTC	
25	実習	相互実習　PMTC	
26	実習	相互実習　プロービング・動揺度	
27	実習	相互実習　プロービング・動揺度	
28	実習	相互実習　超音波スケーリング	
29	実習	相互実習　超音波スケーリング	
30	試験	後期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義・演習</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>3</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">歯科予防処置Ⅲ</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">西山　裕佳</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">教科書（最新 歯科衛生士教本　歯科予防処置・歯科保健指導）
プリント</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯周組織および歯周病の基本的知識を身につけ、歯周病予防･治療時に必要な歯石基本技術を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科衛生士の実務経験を活かし、歯周組織および歯周病の基本的知識に基づいて、歯周病予防･治療時に必要な歯石除去法の基本技術についての演習および解説により知識の統合を図る。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.歯・口腔の健康状態の把握ができるようになる
2.歯周病と全身疾患の関連、リスクについて説明できる。
3.歯・歯周組織の検査方法を身に付ける。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	総論 概要	歯科予防処置の範囲と業務	
2	総論 概要	歯周病予防	
3	総論 概要	う蝕予防	
4	総論 対象者の把握	全身疾患・生活習慣	
5	総論 対象者の把握	ライフステージの特徴	
6	総論 歯・口腔の健康状態の把握	歯・歯周組織	
7	総論 歯・口腔の健康状態の把握	付着物・沈着物	
8	歯周病予防処置 基礎知識	歯周病と生活習慣の関連	
9	歯周病予防処置 基礎知識	歯周病と全身疾患の関連	
10	歯周病予防処置 基礎知識	歯周病のリスク	
11	歯周病予防処置 歯・歯周組織の検査	プロービング①　ポケットデプス	
12	歯周病予防処置 歯・歯周組織の検査	プロービング②　アタッチメントレベル	
13	歯周病予防処置 歯・歯周組織の検査	プロービング③　BOP・GBI・根分岐部病変	
14	歯周病予防処置 歯・歯周組織の検査	歯肉の炎症の評価・プラーク、歯石の検査	
15	試験	前期試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	1
科目名	齲蝕予防処置（講義） ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	松島　真英		
使用教材	歯科予防処置・歯科保健指導　　（医歯薬出版）							
科目概要	う蝕の性質と特徴を理解し、う蝕予防を実施する為に必要な知識を理解し、習得する。							
実務経験と授業科目の関連	歯科衛生士の実務経験を活かし、口腔の基礎知識や齲蝕の因子などについて講義する。							
到達目標	1.口腔の構造、歯冠と歯根の形態について説明できる。 2.う蝕の分類と原因、唾液の機能について説明できる。 3.う蝕活動性試験の意義・条件・目的について説明できる。							
評価方法基準	期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。							
成績評価のフィードバック	担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	歯科予防処置の概論	う蝕予防処置とは	
2	予防の概念	う蝕の予防レベル	
3	口腔の基礎知識	口腔・口腔周囲の構造	
4	口腔の基礎知識	歯冠と歯根の形態/歯周組織	
5	う蝕の基礎知識	口腔内の付着物/う蝕とは	
6	う蝕の基礎知識	う蝕の分類と原因	
7	食生活指導の基礎	ショ糖とう蝕の関連性/食品のう蝕誘発性	
8	食生活指導の基礎	代用甘味料/酸蝕症と食生活/咀嚼と食品	
9	唾液の主な成分と働き	唾液の機能	
10	う蝕の表現方法	う蝕指数の求め方	
11	う蝕の表現方法	学校保健安全法に基づく歯科健康診断	
12	齲蝕活動性試験 （カリエスリスクテスト）	う蝕活動性とは/う蝕活動性試験の意義・条件・目的	
13	齲蝕活動性試験 （カリエスリスクテスト）	う蝕発病因子の評価方法の種類と特徴/試験の実際/評価に基づく治療と予防	
14	齲蝕活動性試験 （カリエスリスクテスト）	う蝕活動性試験（実習）	
15	試験	前期試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	1
科目名	齲蝕予防処置（演習） ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	松島　真英		
使用教材	歯科予防処置・歯科保健指導　　（医歯薬出版）							
科目概要	フッ化物応用についてや小窩裂溝填塞についての基礎知識と手法を身に付ける。							
実務経験と授業科目の関連	歯科衛生士の実務経験を活かし、齲蝕予防に必要な知識に基づいて、フッ化物応用法・小窩裂溝填塞法・齲蝕活動性試験の技術の演習および、フッ素洗口法の指導方法についての解説により知識の統合を図る。							
到達目標	1.フッ化物応用についての基礎知識と手法を身に付ける 2.小窩裂溝填塞についての基礎知識と手法を身に付ける							
評価方法基準	期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。							
成績評価のフィードバック	担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	フッ化物応用	フッ化物局所応用によるう蝕予防法	
2	フッ化物応用	フッ化物歯面塗布法/塗布時期と対象歯	
3	フッ化物応用	フッ化物歯面塗布の薬剤・保管と使用量	
4	フッ化物応用	フッ化物洗口法の特徴/種類	
5	フッ化物応用	フッ化物洗口ガイドライン/う蝕予防効果	
6	フッ化物応用	フッ化物配合歯磨剤の特徴	
7	フッ化物応用	フッ化物配合歯磨剤の新しい応用方法/ 効果的な使用方法	
8	フッ化物の毒性と 急性中毒への対応	急性中毒/慢性中毒/悪心・嘔吐発現フッ化物 溶液量算出方法	
9	フッ化物応用	フッ化物塗布（実習）	
10	フッ化物応用	フッ化物洗口（実習）	
11	小窩裂溝填塞	小窩裂溝填塞とは/適応歯	
12	小窩裂溝填塞	小窩裂溝填塞材の種類/術式	
13	小窩裂溝填塞	器具・薬剤の取り扱い方と管理方法	
14	小窩裂溝填塞	小窩裂溝填塞後の指導/小窩裂溝填塞（実習）	
15	試験	後期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>3</td><td>開講時期</td><td>通年</td><td>形態</td><td colspan="2">講義・演習</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>90</td><td>対象年次</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">歯科保健指導Ⅰ</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">金子　聖美</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">教科書（最新 歯科衛生士教本　歯科予防処置・歯科保健指導）
プリント</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯科保健指導の意義や健康教育を行うために必要な基礎知識、歯科衛生士としての役割を修得する。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科衛生士の実務経験を活かし、各ライフステージにおける歯科衛生介入についてや、個人を対象とした歯科保健指導法の演習および基礎知識,また、口腔内ブラッシング方法や歯磨剤について演習および解説を行い知識の統合を図る。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.健康の概念・健康増進施策について説明できる。
2.口腔の基礎知識について理解を深める。
3.各ライフステージにおける歯科衛生活動の展開について理解する。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	Ⅰ　総論	オリエンテーション 歯科保健指導の定義	
2	Ⅰ　総論	歯科保健指導の考え方・内容	
3	Ⅰ　総論	健康の概念・健康増進施策	
4	Ⅰ　総論	歯科衛生介入の見学（2年生）	
5	Ⅱ歯科保健指導の基礎知識	口腔の基礎知識（正常な口腔）	
6	Ⅱ歯科保健指導の基礎知識	口腔の基礎知識（口腔の機能）	
7	Ⅱ歯科保健指導の基礎知識	う蝕と歯周病	
8	Ⅲ　歯科保健指導各論	口腔内の情報収集	
9	Ⅲ　歯科保健指導各論	歯科衛生介入（ブラッシング）	
10	Ⅲ　歯科保健指導各論	歯科衛生介入（歯磨剤・洗口液）	
11	Ⅲ　歯科保健指導各論	歯科衛生介入（その他の清掃方法）	
12	Ⅲ　歯科保健指導各論	ブラッシング実習	
13	Ⅲ　歯科保健指導各論	歯科衛生介入（ブラッシング方法）	
14	Ⅲ　歯科保健指導各論	その他の清掃用具実習	
15	試験	前期試験	

回	単元	内容	備考
16	Ⅲ　歯科保健指導各論	分析のためのデータ①	
17	Ⅲ　歯科保健指導各論	分析のためのデータ②	
18	Ⅲ　歯科保健指導各論	染め出し・ＰＣＲ実習	
19	Ⅲ　歯科保健指導各論	染め出し・ＰＣＲ実習	
20	Ⅲ　歯科保健指導各論	喫煙者に対する指導	
21	Ⅳ　歯科衛生活動の展開	ライフステージ（妊産婦期）	
22	Ⅳ　歯科衛生活動の展開	ライフステージ（新生児・乳児期）	
23	Ⅳ　歯科衛生活動の展開	ライフステージ（離乳期）	
24	Ⅳ　歯科衛生活動の展開	ライフステージ（幼児期）	
25	Ⅳ　歯科衛生活動の展開	グループ発表	
26	Ⅳ　歯科衛生活動の展開	ライフステージ（学齢期）	
27	Ⅳ　歯科衛生活動の展開	ライフステージ（青年期）	
28	Ⅳ　歯科衛生活動の展開	ライフステージ（成人期）	
29	Ⅳ　歯科衛生活動の展開	グループ発表	
30	試験	後期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>2</td><td>開講時期</td><td>通年</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>60</td><td>対象年次</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">歯科保健指導Ⅱ</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">金子　聖美</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">教科書（最新 歯科衛生士教本　歯科予防処置・歯科保健指導）
プリント</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">　歯科保健指導および健康教育を行うために必要な基礎知識、歯科衛生士としての役割を理解し、知識・技術・態度を修得する。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科衛生士の実務経験を活かし、小学校や市町村保健センターなどでの指導を行えるよう練習を行い、対象別・症例別歯科保健指導を実施する。また、ライフスタイルにあった生涯を通じた口腔保健管理のための基礎知識を解説し、知識の統合を図る。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴及び歯科保健行動を説明できる
2.適切な指標を用いて口腔の状況を診査し、評価できる
3.各ライフステージ別の口腔清掃の指導ができる</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	１年次の振り返り	１年生での振り返り試験（復習）	
2	Ⅱ歯科保健指導の基礎知識	食生活指導の基礎	
3	Ⅱ歯科保健指導の基礎知識	う蝕誘発性	
4	Ⅱ歯科保健指導の基礎知識	咀嚼と食品	
5	Ⅲ　歯科保健指導各論	食生活指導の進め方	
6	Ⅲ　歯科保健指導各論	歯科医院における食生活指導	
7	Ⅲ　歯科保健指導各論	シュガーコントロール	
8	Ⅲ　歯科保健指導各論	グループワーク（献立・役割分担）	
9	Ⅲ　歯科保健指導各論	噛むことを考えた調理実習	
10	Ⅲ　歯科保健指導各論	噛むことを考えた調理実習	
11	Ⅲ　歯科保健指導各論	喫煙者に対する指導（演習）	
12	Ⅲ　歯科保健指導各論	歯科衛生過程	
13	Ⅲ　歯科保健指導各論	歯科衛生過程	
14	Ⅲ　歯科保健指導各論	歯科衛生過程（演習）	
15	試験	前期試験	

回	単元	内容	備考
16	Ⅳ　歯科衛生活動の展開	ライフステージ（高齢者）	
17	Ⅳ　歯科衛生活動の展開	ライフステージ（障害者）	
18	Ⅳ　歯科衛生活動の展開	グループ発表・演習	
19	Ⅳ　歯科衛生活動の展開	グループ発表・演習	
20	Ⅳ　歯科衛生活動の展開	幼児への指導（演習）	
21	Ⅳ　歯科衛生活動の展開	幼児への指導（演習）	
22	Ⅳ　歯科衛生活動の展開	幼児への指導（演習）	
23	Ⅱ歯科保健指導の基礎知識	行動変容とそのステップ	
24	Ⅱ歯科保健指導の基礎知識	行動変容とそのステップ（演習）	
25	Ⅲ　歯科保健指導各論	ブラッシング指導（演習）	
26	Ⅲ　歯科保健指導各論	ブラッシング指導（演習）	
27	Ⅲ　歯科保健指導各論	術者磨きについて	
28	Ⅲ　歯科保健指導各論	術者磨きについて実習	
29	Ⅲ　歯科保健指導各論	術者磨きについて実習	
30	試験	後期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義・演習</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>3</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">歯科保健指導Ⅲ</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">金子　聖美</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">教科書（最新 歯科衛生士教本　歯科予防処置・歯科保健指導）
プリント</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">　歯科保健指導および健康教育を行うために必要な基礎知識、歯科衛生士としての役割を理解し、知識・技術を深める。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科衛生士の実務経験を活かし、健康と疾病の概念や、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度についての演習および解説により知識の統合を図る。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">① 口腔健康管理を行うための歯科衛生介入計画を立案できる。
② 口腔健康管理に関する清掃用具を説明できる。
③ 歯磨剤・洗口剤・保湿剤の特徴を説明できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	総論 概要	歯科保健指導の意義と目的	
2	総論 概要	歯科保健指導・健康教育の進め方	
3	総論 概要	業務記録	
4	総論 基礎知識	信頼関係の構築・保健行動と行動変容	
5	情報収集 個人	全身的な健康状態の把握	
6	情報収集 個人	認知及び精神状態の把握・生活習慣の把握	
7	情報収集 個人	口腔器質的、機能的問題の把握	
8	情報収集 集団・組織・地域	集団・組織・地域の理解	
9	口腔衛生管理 基礎知識	口腔清掃用具	
10	口腔衛生管理 基礎知識	歯磨剤・洗口剤・保湿剤	
11	口腔衛生管理 指導の要点	口腔衛生状態	
12	口腔衛生管理 指導の要点	指導内容	
13	口腔衛生管理 対象者の指導	ライフステージに対応した指導	
14	口腔衛生管理 対象者の指導	口腔状況に応じた指導	
15	試験	前期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>4</td><td>開講時期</td><td>通年</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>60</td><td>対象年次</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">解剖・生理・組織発生学</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">佐藤　友彦</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">人体の構造と機能　　医歯薬出版</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">人体の成り立ちを理解するために、体の構造と機能、組織・発生に関する
基本的知識を習得する。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">基礎医学系大学院での研究経験を活かし、解剖・生理・組織学の知識を
初歩から国家試験に必要なレベルまで講義する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.身体の部位を解剖学的な名称で表現できる。
2.細胞の基本的生理機能を概説できる。
3.遺伝子と遺伝情報を概説できる。
4.心臓の構造と機能を概説できる
5.脳と脊髄の基本構造と機能を概説できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">前期及び後期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA,70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	細胞	細胞と組織	人体の 不思議展
2	細胞	器官系	
3	細胞	ホメオスタシス	
4	運動系	身体の区分と姿勢	
5	運動系	骨格と関節	
6	運動系	骨格筋と運動	人体Ⅰ 骨・骨格
7	神経系	神経細胞と組織	
8	神経系	中枢神経系	
9	神経系	末梢神経系	
10	感覚器官	体性感覚	
11	感覚器官	特殊感覚	
12	血液	血液の成分と機能	
13	血液	血液型と止血機構	
14	生体防御機構	免疫とリンパ系	人体Ⅰ 生命を守る
15	試験	前期試験	

回	単元	内容	備考
16	循環器系	心臓	
17	循環器系	血管	
18	循環器系	循環調整	
19	呼吸器系	気道と肺	
20	呼吸器系	呼吸運動とガス交換	
21	呼吸器系	呼吸の調整	
22	消化器系	消化器系の構造	
23	消化器系	消化と吸収	人体Ⅰ 胃腸
24	泌尿器系	尿の生成	
25	泌尿器系	体液の調整	
26	内分泌系	下垂体ホルモン	
27	内分泌系	その他のホルモン	人体Ⅰ 生命誕生
28	代謝と体温	代謝とエネルギー	
29	代謝と体温	体温調整	
30	試験	後期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>2</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">栄養と代謝</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">非常勤講師</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">人体の構造と機能２　　医歯薬出版</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">人体の生命現象を分子レベルの化学反応や、人体の代謝と機能に関する基本的知識について、また栄養の基本的概念を理解し、食物より摂取された各栄養素の生体内における消化、吸収、代謝を中心にその生理的意義などについて学ぶ。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科医師としての実務経験を活かし、人体の生命現象を分子レベルの化学反応から理解できるよう、人体の代謝と機能に関する基本的知識を解説する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.生体構成成分と栄養素の種類および作用を説明できる。
2.栄養素の消化と吸収を説明できる。
3. エネルギー代謝を説明できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	序章　栄養と代謝	本講義で学ぶ項目とその意義	
2	第一章　生体と構成要素	細胞と基本骨格を知る	
3	生体の栄養素	五大栄養素、それぞれの科学反応	
4	第二章　生体の科学反応	生体を構成する成分と化学反応	
5	糖質と脂質	エネルギーの合成と代謝の仕組み	
6	たんぱく質とアミノ酸	必須アミノ酸を覚える	
7	生体の恒常性	ホメオスタシス、生体の調節機構	
8	第三章　口腔生化学総論	歯と歯周組織　その構成要素	
9	歯周組織	結合組織・コラゲーンとエラスチン	
10	歯の組織	無期成分と有機成分	
11	骨代謝	骨の生成と吸収、石灰化機構	
12	唾液の生化学	唾液の組成と機能	
13	プラークの生化学	バイオフィルムに関して	
14	齲蝕発生機構	菌体外毒素の生化学	
15	試験	前期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>2</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">口腔解剖学</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">非常勤講師</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学、口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版）</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">口腔機能に関連する口腔諸構造の形態や口腔諸構造の土台をなす骨系、咀嚼運動に関連する筋系などについて学ぶ。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科医師の実務経験を活かし、顎・口腔の構造　歯と歯周組織の発生についての基礎知識について解説する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1. 口腔の範囲と各部位の名称を説明できる。
2. 口腔を構成する骨、頭頸部の筋と作用を説明できる。
3. 口腔の脈管と神経、また唾液腺、咽頭と喉頭の構造を説明できる。
4.歯と歯周組織の発生について説明できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	口腔とその周囲の解剖学	予習	
2	口腔とは	口腔とその周囲の表面 口腔前庭	
3	口腔とは	固有口腔	
4	口腔を構成する骨	口蓋を構成する骨	
5	口腔を構成する骨	口腔を構成する骨	
6	頭頸部の筋と作用	顔面筋（表情筋）・咀嚼筋・舌筋 頸部の筋・顎下三角とオトガイ三角	
7	顎関節	骨・軟組織	
8	口腔周囲の脈管	動脈系・静脈系・リンパ系	
9	神経	三叉神経・顔面神経・舌咽神経	
10	神経	迷走神経・舌下神経　頭頸部に分布する脊髄神経・頭部の自律神経	
11	唾液腺・咽頭と喉頭の構造	唾液腺・大唾液腺・小唾液腺　　咽頭・喉頭・食堂・嚥下に関与する筋群	
12	歯と歯周組織の発生	先行歯・代生歯および加生歯の発生	
13	歯と歯周組織の発生	歯の萌出・脱落と交換・萌出の臨床的考察	
14	復習	前期の総復習	
15	試験	前期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>2</td><td>開講時期</td><td>後期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">口腔生理学・口腔組織発生学</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">非常勤講師</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学、口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版）</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯科医師の実務経験を活かし、歯と歯周組織の構造と機能、顎・口腔系の機能についての基礎知識を身につける。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科医師の実務経験を活かし、歯と歯周組織の構造と機能、味覚や嗅覚ついて、また咬合や咀嚼、嚥下機能につて基礎知識を解説する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.下顎の運動を概説できる。咀嚼の意義を説明できる。
2.摂食・咀嚼・嚥下の機序を説明できる。
3.口腔粘膜の分類と特徴を部位ごとに説明できる。
4.歯と歯周組織の構造と機能について説明できる</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	歯と歯周組織の構造と機能、口腔生理学	予習	
2	歯と歯周組織の構造と機能	エナメル質、象牙質・歯髄複合体	
3	歯と歯周組織の構造と機能	エナメル質、象牙質・歯髄複合体	
4	歯と歯周組織の構造と機能	セメント質、歯根膜、歯槽骨、歯周組織の整理、口腔粘膜、歯肉	
5	歯と歯周組織の構造と機能	セメント質、歯根膜、歯槽骨、歯周組織の整理、口腔粘膜、歯肉	
6	口腔生理学	歯と口腔の感覚、味覚と嗅覚	
7	口腔生理学	歯と口腔の感覚、味覚と嗅覚	
8	口腔生理学	咬合と咀嚼・吸綴	
9	口腔生理学	咬合と咀嚼・吸綴	
10	口腔生理学	嚥下と嘔吐	
11	口腔生理学	嚥下と嘔吐	
12	口腔生理学	発声	
13	口腔生理学	唾液	
14	復習	後期の総復習	
15	試験	後期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>2</td><td>開講時期</td><td>後期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">歯牙解剖学</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">非常勤講師</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">歯・口腔の構造と機能口腔解剖学、口腔組織発生学・口腔生理学　　医歯薬出版</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯および歯周組織の構造と機能を理解し、歯科医学の基礎となる歯の形態を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科技工士の実務経験を活かし、歯の表示法や記号についての知識、人の歯の形態、歯の発生や歯列、咬合、歯根形態についての基礎知識を解説する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.歯の表示法や記号について説明できる。
2.歯種を鑑別できる。
3.歯の萌出について説明できる。
4.歯列と咬合について説明できる。
5.歯の形態を歯種別に説明できる。
6.歯の形態異常について説明できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">歯型彫刻実習物提出物、期末試験、小テストにより総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">実習時の修正とデモ、試験内容の解説</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	歯牙解剖学概論	歯牙解剖とは？	
2	歯および歯周組織の構造と機能	歯の形態	
3	歯および歯周組織の構造と機能	歯の用語	
4	歯および歯周組織の構造と機能	永久歯の特徴	
5	歯および歯周組織の構造と機能	永久歯：前歯部	
6	歯および歯周組織の構造と機能	永久歯：臼歯部	
7	歯および歯周組織の構造と機能	乳歯：前歯部	
8	歯および歯周組織の構造と機能	乳歯：臼歯部	
9	歯および歯周組織の構造と機能	歯列、歯列弓	
10	歯および歯周組織の構造と機能	咬合、顎位	
11	歯および歯周組織の構造と機能	異常歯	
12	歯、口腔の構造と機能を理解するための実習	歯型彫刻（石膏棒による）	
13	歯、口腔の構造と機能を理解するための実習	歯型彫刻（石膏棒による）	
14	歯、口腔の構造と機能を理解するための実習	歯型彫刻（石膏棒による）	
15	試験	後期試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	1
科目名	病理・口腔病理学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	非常勤講師		
使用教材	病理・口腔病理学　医歯薬出版							
科目概要	疾病の概念、病因と病態に関する基本的知識を学び、さらに口腔領域に発生する疾病の発生機序および病理学的特徴について深める。							
実務経験と授業科目の関連	歯科医師の実務経験を活かし、口腔領域における疾病や発生機序について、国家試験および歯科領域として必要な知識を実際の事例とともに解説をする。							
到達目標	1.細胞・組織の変性、萎縮、壊死を概説できる。 2.肥大、増生、化生、再生を概説できる。 3.炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。 4.腫瘍の病因と進展を概説できる。 5.歯の発育障害の種類と病態を概説できる。							
評価方法基準	期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減。 総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。							
成績評価のフィードバック	担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	病理学序論・代謝	病因論、代謝障害	
2	循環障害、増殖と修復	循環障害とは？肥大と増生	
3	炎症と免疫応答異常	炎症とは？免疫、免疫異常	
4	腫瘍、遺伝性疾患	腫瘍の発生、遺伝性疾患と奇形	
5	口腔病理学	歯の発生異常、歯の損傷と付着物	
6	口腔病理学	う蝕、象牙質、歯髄複合体の病変	
7	歯周組織の病態	根尖部組織病変、辺縁部組織病変	
8	口腔領域の奇形	口腔発育異常	
9	口腔粘膜病変	口腔粘膜疾患、口腔癌、前癌病変	
10	口腔領域の嚢胞と腫瘍	口腔嚢胞、口腔腫瘍と腫瘍様病変	
11	顎骨、唾液腺病変	顎骨の病変、唾液線の病変について	
12	口腔組織の加齢変化	加齢・全身疾患に伴う口腔変化	
13	総括	重要な箇所の再解説	
14	総括	4 択形式でチェック・解説	
15	前期試験	前期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>2</td><td>開講時期</td><td>後期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>1</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">微生物・口腔微生物学
☑　実務経験のある教員による授業</td><td>担当者</td><td colspan="3">非常勤講師</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">微生物学　医歯薬出版</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的な性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する知識を解説</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科医師の実務経験を活かし、口腔領域における疾病を理解するため、う蝕・歯周病の細菌の性状を中心に理解を深め、感染に対する免疫の知識までを解説する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1. 感染と発症を説明できる
2. 滅菌消毒の意義や院内感染の原因や予防法について説明できる
3. 免疫やワクチン、アレルギーについて説明できる
4. 微生物と口腔環境の関わりを説明できる</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減。
総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	疾病と微生物	疾病と微生物、免疫学	
2	疾病と微生物	感染と感染症	
3	微生物の病原性	微生物の分類	
4	微生物の病原性	細菌の性状と病原性	
5	宿主防御機構と免疫	宿主防御機構、免疫機構	
6	宿主防御機構と免疫	液性免疫、細胞性免疫、アレルギー	
7	口腔微生物	口腔細菌叢、デンタルプラーク	
8	口腔微生物	歯石の形成、バイオフィルム感染症	
9	口腔感染症	う蝕、歯内感染症	
10	口腔感染症	歯周病、その他口腔感染症	
11	化学療法	化学療法と化学療法薬	
12	化学療法	主な化学療法薬の種類と特徴	
13	院内感染対策と滅菌、消毒	口腔外感染と院内感染対策	
14	院内感染対策と滅菌、消毒	滅菌と消毒の方法	
15	試験	後期試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	1
科目名	薬理学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	非常勤講師		
使用教材	薬理学　医歯薬出版							
科目概要	薬の作用や適用方法、剤型、保存等について、また薬物名、薬理作用と安全性や副作用、安全な薬物療法、服薬指導などに関する基本的知識を解説する。							
実務経験と授業科目の関連	歯科医師、臨床検査技師の実務経験を活かし、薬物療や医薬品の分類についてまた薬の作用、作用機序、副作用について講義する。							
到達目標	１．薬物療法を説明できる ２．薬物の作用機序を説明できる ３．医薬品の分類を説明できる ４．炎症のメカニズムを概説できる ５．歯科治療に用いる薬の作用、作用機序、副作用を説明できる							
評価方法基準	期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をＡ、70～79点をＢ、60～69点の評価をし、60点未満の者には再試験を課す							
成績評価のフィードバック	担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを提示する。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	総論	薬力学	
2	総論	薬物動態学	
3	総論	薬物の取り扱い	
4	疾病の回復を促進する薬	末梢神経系に作用する薬	
5	疾病の回復を促進する薬	中枢神経系に作用する薬①	
6	疾病の回復を促進する薬	中枢神経系に作用する薬②	
7	疾病の回復を促進する薬	痛みと薬	
8	疾病の回復を促進する薬	炎症と薬	
9	疾病の回復を促進する薬	循環器と薬	
10	疾病の回復を促進する薬	呼吸器、消化器系と薬	
11	疾病の回復を促進する薬	免疫、代謝、腫瘍と薬	
12	疾病の回復を促進する薬	抗菌薬と消毒	
13	疾病の回復を促進する薬	歯科領域における薬	
14	まとめ	まとめ	
15	試験	期末試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>4</td><td>開講時期</td><td>通年</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>60</td><td>対象年次</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">口腔衛生学</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">非常勤講師</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み　　医歯薬出版</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">健康と予防歯学の概念や、歯科衛生士としての社会での役割について、また、歯・口腔の健康に関わる社会の仕組み、歯科疾患の予防能力を高める態度、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識について講義する。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科医師の実務経験を活かし、う蝕の疫学的特性や発病要因について、また人間生態系におけるフッ化物の意義について解説する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">１．口腔と全身の健康の関係を説明できる。
２．口腔清掃法の種類を列挙できる。
３．う蝕の疫学的特性を概説できる。
４．う蝕の発病要因を説明できる。
５．　人間生態系におけるフッ化物の意義を説明できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	衛生学総論	口腔衛生学とは　歯と口腔の健康	
2	衛生学総論	健康、予防医学の概念　歯と口腔の健康と予防	
3	疫学	疫学、歯と口腔の構造	
4	疫学	疫学の研究方法、歯と口腔の発生と成長	
5	人口	人口の動向と統計、歯と口腔機能	
6	健康と環境	空気と水、口腔の環境と全身の健康	
7	健康と環境	放射能と住居、ペリクルとプラーク	
8	健康と環境	地球環境と公害、歯石	
9	健康と環境	廃棄物処理、舌苔	
10	感染症	感染症の成り立ち、う蝕の疫学	
11	感染症	感染症の予防と主な感性症、歯周病の疫学	
12	食品と健康	食品保健、歯の喪失の疫学	
13	食品と健康	栄養と健康、その他の疫学、夏休み宿題配布	
14	前期試験対策	夏休みの宿題の答え合わせ	
15	試験	前期試験	

回	単元	内容	備考
16	口腔清掃	口腔清掃法と用具	
17	口腔清掃	不適切な口腔清掃の為害性	
18	口腔清掃	歯磨剤と洗口剤	
19	う蝕の予防	う蝕の発生、進行、分類	
20	う蝕の予防	う蝕の発生要因と活動性試験	
21	う蝕の予防	う蝕の予防法	
22	フッ化物によるう蝕予防	フッ化物の正常と代謝	
23	フッ化物によるう蝕予防	フッ化物にう蝕予防とメカニズム	
24	歯周疾患の予防	歯周疾患の分類と発生機序 予防についての説明	
25	歯周疾患の予防	歯周疾患の全身影響と予防手段	
26	その他の疾患、異常の機序	不正咬合の予防	
27	その他の疾患、異常の機序	口臭の予防、冬休み宿題配布	
28	その他の疾患、異常の機序	その他の歯科疾患の予防	
29	後期試験対策	冬休み宿題の答え合わせ	
30	試験	後期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>2</td><td>開講時期</td><td>後期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">公衆衛生学</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">非常勤講師</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み　　（医歯薬出版）</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">生活と健康に関わる社会の仕組みと地域社会における保健対策の基本的な考え方、地域集団に対する疾病の予防能力を高める態度、健康に関わる地域の役割に関する基本的知識を解説する。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科医師の実務経験を活かし、公衆衛生の意義や目的、政策等の基礎や口腔保健管理について解説する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.地域保健を担う組織の仕組みと特徴を概説できる。
2.母子保健、学校保健の概略を説明できる。
3.成人期の口腔保健管理を説明できる。
4.産業保健の目的を説明できる。高齢者の保健福祉対策ついて説明できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	総論	健康の概念	
2	地域保健・公衆衛生	地域保健の概念・健康日本２１	
3	地域保健・公衆衛生	メタボリックシンドローム・PDCA	
4	地域保健・公衆衛生	ヘルスプロモーション	
5	母子保健	概要・母子保健手帳	
6	母子保健	１歳６か月児・３歳児保険診査	
7	母子保健	う蝕罹患型	
8	学校保健	概要・保健教育と保健管理	
9	学校保健	COとGO	
10	産業保健	保健管理体制（要因・管理）	
11	産業保健	職業性疾病	
12	老人保健	介護保険制度	
13	老人保健	地域包括ケアシステム	
14	精神保健・国際保健	概要	
15	試験	後期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>2</td><td>開講時期</td><td>後期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">衛生行政・統計</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">松島　真英</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険　　医歯薬出版</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">生活と健康に関わる社会の仕組みと、地域社会における保健対策の基本的な考え方、地域集団に対する疾病の予防能力を高める態度、健康に関わる地域の役割について基本的知識を解説する。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科衛生士の実務経験を活かし、地域保健の仕組みや歯科保健について、また産業保健に関する法規などより具体的に解説する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">①地域保健の仕組み、特徴を概説できる
②母子保健について概説できる
③学校保健について意義、仕組みを概説できる
④生活習慣病について理解し成人保健対策を概説できる
⑤産業保健の目的、関する法規などを概説できる
⑥高齢者の保健福祉対策について概説できる
⑦精神保健の定義及び意義、また精神障害者の歯科保健の問題について概説できる
⑧災害時の保健医療対策、保健活動を概説できる
⑨国や地域により健康水準、保健医療が異なることを理解し、国際保健について概説できる</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	社会保障制度	社会保障制度について	
2	衛生行政	衛生行政について	
3	衛生関係法	医師法、歯科医師法、歯科衛生士法について	
4	衛生関係法	関連する医療関係者の法、医療法、薬事に関連する法	
5	衛生関係法	地域、感染症、食に関連する法	
6	保健医療の動向	厚生関係統計調査・国民の健康状態と受療状況	
7	保健医療の動向	医療施設・医療関係者	
8	社会保険	社会保険制度・医療保険・年金制度	
9	社会保険	労働保険・介護保険	
10	社会福祉	社会福祉制度・社会福祉行政の組織と従事者・生活保護制度	
11	社会福祉	児童と家庭・障害者・高齢者福祉制度	
12	保健医療の実務	医療保険の仕組み・保険医療機関での実務	
13	保健医療の実務	介護保険での実務	
14	まとめ	まとめ	
15	後期試験	後期試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	2
科目名	集団の指導法Ⅰ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	西山　裕佳		
使用教材	臨地実習HANDBOOK（クインテッセンス出版）							
科目概要	歯科衛生士の実務経験を活かし、保健指導で学んだ内容を基礎とした、幼児へのブラッシング指導の進め方や指導法について学ぶ。							
実務経験と授業科目の関連	歯科衛生士の実務経験を活かし、幼児へのブラッシング指導の進め方や指導法について演習および講義を行い、知識の統合を図る。							
到達目標	1. 健康教育の対象と場の特徴を説明できる。 2. 集団・組織・地域の実態が把握できる。 3. 健康教育の計画立案ができる。 4. 保育所、幼稚園（乳幼児）の口腔保健の実態が把握できる。 5 .保育所、幼稚園（乳幼児）を対象とした健康教育ができる。							
評価方法基準	期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。							
成績評価のフィードバック	担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	事前学習	幼児期について・指導内容	
2	歯科衛生教育	グループでの話し合い	
3	歯科衛生教育	台本作成	
4	歯科衛生教育	台本完成	
5	歯科衛生教育	媒体づくり①	
6	歯科衛生教育	媒体づくり②	
7	歯科衛生教育	媒体完成	
8	歯科衛生教育	練習	
9	歯科衛生教育	教員発表	
10	歯科衛生教育	修正・練習	
11	歯科衛生教育	練習	
12	歯科衛生教育	発表	
13	歯科衛生教育	練習・準備	
14	臨地実習	幼稚園・保育園	
15	評価	自己評価・グループ評価	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義・演習	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	2
科目名	集団の指導法Ⅱ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	松島　真英		
使用教材	臨地実習HANDBOOK（クインテッセンス出版）							
科目概要	歯科衛生士の実務経験を活かし、保健指導で学んだ内容を基礎とした、小学生へのブラッシング指導の進め方や指導法について学ぶ。							
実務経験と授業科目の関連	歯科衛生士の実務経験を活かし、集団を対象とした歯科保健教育の特徴や、対象別の歯科保健教育計画の立案方法、実施方法、教育媒体の作成方法について演習及び解説を行い知識の統合を図る。							
到達目標	1.健康教育の内容を説明できる。 2.健康教育活動の工夫と留意点を説明できる。 3. 小学校（児童）の口腔保健の実態が把握できる。 4. 小学校（児童）を対象とした健康教育ができる。							
評価方法基準	期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。							
成績評価のフィードバック	担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	事前学習	学童期について・指導内容	
2	歯科衛生教育	グループでの話し合い	
3	歯科衛生教育	台本作成	
4	歯科衛生教育	台本完成	
5	歯科衛生教育	媒体づくり①	
6	歯科衛生教育	媒体づくり②	
7	歯科衛生教育	媒体完成	
8	歯科衛生教育	練習	
9	歯科衛生教育	教員発表	
10	歯科衛生教育	修正・練習	
11	歯科衛生教育	練習	
12	歯科衛生教育	発表	
13	歯科衛生教育	練習・準備	
14	臨地実習	小学校	
15	評価	自己評価・グループ評価	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	3
科目名	集団の指導法Ⅲ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	阿部　博美		
使用教材	臨地実習HANDBOOK（クインテッセンス出版）							
科目概要	歯科衛生士の実務経験を活かし、保健指導で学んだ内容を基礎とした、中学生へのブラッシング指導の進め方や指導法について学ぶ。							
実務経験と授業科目の関連	歯科衛生士の実務経験を活かし、地域歯科保健の概要、対象者の年齢や環境における個人及び集団に適する口腔衛生指導、メンテナンス管理法、指導案作成の知識、技術について演習および解説を行い、知識の統合を図る。							
到達目標	1.健康教育の内容を説明できる。 2.健康教育活動の工夫と留意点を説明できる。 3. 中学校（生徒）の口腔保健の実態が把握できる。 4. 中学校（生徒）を対象とした健康教育ができる。							
評価方法基準	期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。							
成績評価のフィードバック	担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	事前学習	学童期について・指導内容	
2	歯科衛生教育	グループでの話し合い	
3	歯科衛生教育	台本作成	
4	歯科衛生教育	台本完成	
5	歯科衛生教育	媒体づくり①	
6	歯科衛生教育	媒体づくり②	
7	歯科衛生教育	媒体完成	
8	歯科衛生教育	練習	
9	歯科衛生教育	教員発表	
10	歯科衛生教育	修正・練習	
11	歯科衛生教育	練習	
12	歯科衛生教育	発表	
13	歯科衛生教育	練習・準備	
14	臨地実習	中学校	
15	評価	自己評価・グループ評価	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">摂食嚥下リハビリテーション</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">非常勤講師</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第２版</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯科医療の概要について、また歯科衛生士の専門的な摂食嚥下リハビリテーションと口腔ケアの方法について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科医師の実務経験を活かし、治す治療から治し支える治療へと変化してきている歯科医療の概要について、また歯科衛生士の専門的な摂食嚥下リハビリテーションと口腔ケアの方法について講義する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の専門性を高める</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">教科書をベースとした講義</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☐　なし
☑　あり

教科書の予習・復習</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1		歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション リハビリテーションと摂食嚥下リハビリテーション	
2		摂食嚥下障害患者への口腔管理と制度の理解	
3		摂食嚥下機能のメカニズム	
4		摂食嚥下機能のメカニズム	
5		咬合および咀嚼機能の管理と評価	
6		栄養管理	
7		リスクマネジメント	
8		病態別摂食嚥下障害	
9		病態別摂食嚥下障害	
10		摂食嚥下の評価	
11		摂食嚥下リハビリテーションと口腔衛生管理	
12		摂食嚥下訓練	
13		摂食嚥下訓練	
14		歯科衛生士が行う摂食嚥下リハビリテーションの基本	
15	試験	前期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>3</td><td>開講時期</td><td>通年</td><td>形態</td><td colspan="2">講義・演習</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>90</td><td>対象年次</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">歯科診療補助Ⅰ</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">阿部　博美</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">教科書（最新 歯科衛生士教本　歯科診療補助論・歯科材料・歯科機器）
プリント</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯科医療における感染予防策や医療安全について、また歯科衛生士が行う診療の補助の範囲について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科衛生士の実務経験を活かし、術者と補助者の位置や姿勢、薬品管理方法、感染予防、器具の消毒や滅菌の知識、歯科材料の知識、患者誘導方法などの基礎知識について演習および講義を行い知識の統一を図る。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1. 歯科診療補助の概念について理解する
2. 医療安全と感染予防について説明できる
3. 歯科診療における基礎知識を身に付ける
4.歯科材料について説明できる</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☐　なし
☑　あり

教科書の予習・復習</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	2章 医療安全と感染予防	④歯科医療における感染予防策(手指消毒・ﾏｽｸ・ｸﾞﾛｰﾌﾞ)	
2	1章 歯科診療補助の概念	①診療の補助とは　②診療の補助の範囲	
3	2章 医療安全と感染予防	①医療安全　②KYT	
4	2章 医療安全と感染予防	③感染予防(感染経路・感染予防策・ﾘｽｸｱｾｽﾒﾝﾄ)	
5	2章 医療安全と感染予防	⑤滅菌と消毒(滅菌消毒の定義・滅菌方法)	
6	2章 医療安全と感染予防	⑤滅菌と消毒(消毒方法)	
7	2章 医療安全と感染予防	＜実習＞　手洗い	
8	2章 医療安全と感染予防	⑥廃棄物の取り扱い	
9	3章 歯科診療における基礎知識	①歯科診療室の基礎知識(ユニット・切削装置・基本セット等)	
10	3章 歯科診療における基礎知識	②歯科診療所における受診の流れ ③共同動作(概念・ﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞ等)	
11	3章 歯科診療における基礎知識	③共同動作(ﾊﾞｷｭｰﾑﾃｸﾆｯｸ・ｽﾘｰｳｪｲｼﾘﾝｼﾞﾃｸﾆｯｸ)	
12	3章 歯科診療における基礎知識	＜実習＞　ﾊﾞｷｭｰﾑ・ｽﾘｰｳｪｲｼﾘﾝｼﾞﾃｸﾆｯｸ	
13	3章 歯科診療における基礎知識	④ﾗﾊﾞｰダム防湿法(目的・器具の名称と用途・手順)	
14	3章 歯科診療における基礎知識	＜実習＞　ﾗﾊﾞｰﾀﾞﾑ防湿法	
15	試験	前期試験	

回	単元	内容	備考
16	3章 歯科診療における基礎知識	⑤歯肉圧排(方法・薬剤の種類・手順)	
17	3章 歯科診療における基礎知識	＜実習＞　歯肉圧排	
18	５章歯科診療で扱う歯科材料	所要性質・基本的性質	
19	５章歯科診療で扱う歯科材料	練和・接着・取り扱い	
20	印象材	基礎知識・種類・用途・分類・トレー	
21	印象材	印象用トレー・印象材の消毒・嘔吐反射に対する対応	
22	印象材(アルジネート印象材)	基礎知識・用途・特徴	
23	印象材(アルジネート印象材)	＜実習＞　アルジネート印象材：顎模型(片顎トレー)	
24	印象材(アルジネート印象材)	＜実習＞　アルジネート印象材：顎模型(片顎トレー)	
25	印象材(寒天印象材)	基礎知識・用途・特徴	
26	印象材(寒天印象材)	＜実習＞　寒天＋アルジ連合印象採得＋歯肉圧排	
27	印象材(寒天印象材)	＜実習＞　寒天＋アルジ連合印象採得＋歯肉圧排	
28	印象材(合成ゴム質材)	基礎知識・用途・特徴	
29	印象材(合成ゴム質材)	＜実習＞　シリコーンゴム印象材	
30	印象材(合成ゴム質材)	＜実習＞　シリコーンゴム印象材	

回	単元	内容	備考
31	その他の印象材	モデリングコンパウンド・酸化亜鉛ユージノール印象材	
32	印象材まとめ	復習プリント	
33	模型用材料	基礎知識・種類・用途・取り扱い	
34	模型用材料	＜実習＞　アルジネート印象材：顎模型(回転トレー)	
35	模型用材料	＜実習＞　石膏注入(普通石膏)	
36	合着材・接着材	基礎知識・種類・用途・取り扱い	
37	合着材・接着材	リン酸亜鉛セメント・ポリカルボキシレートセメント	
38	合着材・接着材	グラスアイオノマーセメント(従来型・レジン添加型)	
39	合着材・接着材	接着性レジンセメント(MMA系・ｺﾝﾎﾟｼﾞｯﾄﾚｼﾞﾝ系)	
40	合着材・接着材	＜実習＞　合着材(リン酸・カルボ・ｱｲｵﾉﾏｰ)	
41	合着材・接着材	＜実習＞　合着材(リン酸・カルボ・ｱｲｵﾉﾏｰ)	
42	仮封材	基礎知識・種類・用途・取り扱い	
43	仮封材	＜実習＞　仮封材(ｽﾄｯﾋﾟﾝｸﾞ・軟質ﾚｼﾞﾝ・水硬性・ﾕｰｼﾞﾉｰﾙ)	
44	仮封材	＜実習＞　仮封材(ｽﾄｯﾋﾟﾝｸﾞ・軟質ﾚｼﾞﾝ・水硬性・ﾕｰｼﾞﾉｰﾙ)	
45	試験	後期試験	

履修区分	必修	単位数	3	開講時期	通年	形態	講義・演習	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	90	対象年次	2
科目名	歯科診療補助Ⅱ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	阿部　博美		
使用教材	歯科機器　　（医歯薬出版）							
科目概要	診療中の患者の対応、処置後の患者指導及び器材の後始末などの知識・技術について学ぶ。							
実務経験と授業科目の関連	歯科衛生士の実務経験を活かし、歯科診療処置内容やその準備、術式の流れに沿った使用機材の受渡法、診療中の患者の対応、処置後の患者指導及び器材の後始末などの知識・技術について演習および講義を行い、知識の統一を図る。							
到達目標	1.成形歯冠修復材、暫間修復材と仮着用ｾﾒﾝﾄについて理解し手法を身に付ける 2.滅菌消毒法・器具器材の管理方法などを身に付ける 3.歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得する							
評価方法基準	期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。							
成績評価のフィードバック	担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。							
事前準備留意点等	□　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	ワックス	基礎知識・種類・用途	
2	成形歯冠修復材	基礎知識・種類・用途	
3	成形歯冠修復材	ｺﾝﾎﾟｼﾞｯﾄﾚｼﾞﾝ・接着ｼｽﾃﾑ	
4	成形歯冠修復材	＜実習＞　成形歯冠修復材(ｺﾝﾎﾟｼﾞｯﾄﾚｼﾞﾝ)	
5	成形歯冠修復材	＜実習＞　成形歯冠修復材(ｺﾝﾎﾟｼﾞｯﾄﾚｼﾞﾝ)	
6	成形歯冠修復材	グラスアイオノマーセメント・隔壁法	
7	成形歯冠修復材	＜実習＞　隔壁法	
8	成形歯冠修復材	＜実習＞　隔壁法	
9	暫間修復材と仮着用ｾﾒﾝﾄ	用途・種類・方法	
10	暫間修復材と仮着用ｾﾒﾝﾄ	＜実習＞　暫間修復材(印象法・既製冠)	
11	暫間修復材と仮着用ｾﾒﾝﾄ	＜実習＞　暫間修復材(印象法・既製冠)	
12	相互実習室のオリエン	相互実習事前学習	
13	相互実習室のオリエン	＜実習＞　ユニットの使い方・滅菌消毒法・器具器材の管理	
14	相互実習室のオリエン	＜実習＞　ユニットの使い方・滅菌消毒法・器具器材の管理	
15	試験	前期試験	

回	単元	内容	備考
16	共同動作	＜相互実習＞　ﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞ・ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ・ﾊﾞｷｭｰﾑ・受け渡し	
17	局所麻酔	基礎知識・種類・応用と使用法・注意事項	
18	印象採得	＜実習＞　印象採得の練習(マネキン)	
19	印象採得	＜実習＞　印象採得の練習(マネキン)	
20	印象採得	＜相互実習＞　印象採得(片顎・回転トレー)	
21	印象採得	＜相互実習＞　印象採得(片顎・回転トレー)	
22	印象採得	＜相互実習＞　印象採得(全部顎トレー)	
23	印象採得	＜相互実習＞　印象採得(全部顎トレー)	
24	印象採得	＜相互実習＞　印象採得(全部顎トレー)	
25	印象採得	＜相互実習＞　印象採得(全部顎トレー)	
26	ﾗﾊﾞｰﾀﾞﾑ防湿	＜相互実習＞　ﾗﾊﾞｰﾀﾞﾑ防湿	
27	ﾗﾊﾞｰﾀﾞﾑ防湿	＜相互実習＞　ﾗﾊﾞｰﾀﾞﾑ防湿	
28	口腔内写真	基礎・用途	
29	実技試験オリエン	実技試験の内容・評価のポイント	
30	まとめ	まとめ	

回	単元	内容	備考
31	歯科臨床と診療補助	①歯冠修復時の診療補助	
32	歯科臨床と診療補助	②歯内療法時の診療補助	
33	歯科臨床と診療補助	③歯周外科治療の診療補助	
34	歯科臨床と診療補助	④補綴治療時の診療補助	
35	歯科臨床と診療補助	⑤口腔外科治療時の診療補助	
36	歯科臨床と診療補助	⑥歯科麻酔時の診療補助	
37	歯科臨床と診療補助	⑦矯正治療時の診療補助	
38	歯科臨床と診療補助	⑧小児歯科治療時の診療補助	
39	石膏模型作成	＜相互実習＞　印象採得・模型作り・トリーミング	
40	石膏模型作成	＜相互実習＞　印象採得・模型作り・トリーミング	
41	石膏模型作成	＜相互実習＞　印象採得・模型作り・トリーミング	
42	口腔内写真	方法・手順	
43	口腔内写真	＜相互実習＞　口腔内写真撮影	
44	口腔内写真	＜相互実習＞　口腔内写真撮影	
45	試験	後期試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	3
科目名	歯科診療補助Ⅲ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	阿部　博美		
使用教材	歯科診療補助　　医歯薬出版							
科目概要	チーム歯科医療の考え方を学び、さらに専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を習得する。							
実務経験と授業科目の関連	歯科衛生士の実務経験を活かし、さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応できる、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を解説する。							
到達目標	1.患者への対応、診療設備の管理方法を身に付ける 2.医療安全管理、消毒・滅菌について説明できる 3.歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得する							
評価方法基準	期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。							
成績評価のフィードバック	担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	総論 概要・情報収集	歯科診療補助の範囲と業務・チーム歯科医療の考え方	
2	総論 患者への対応	一般的対応・配慮を要する者への対応	
3	総論 診療時の共同動作	共同動作の基本・術者、補助者、患者の位置姿勢	
4	総論 診療設備の管理	歯科用ユニット・エックス線装置・レーザー装置・酸素吸入器など	
5	総論 医療安全管理	医療事故の防止・感染対策	
6	総論 消毒・滅菌	消毒・滅菌の定義・種類と効能・方法・管理	
7	主要歯科材料の種類と取扱いと管理 模型用材料	歯科用石膏の種類と用途	
8	主要歯科材料の種類と取扱いと管理 合着・接着材料	リン酸亜鉛セメント・グラスアイオノマーセメント	
9	主要歯科材料の種類と取扱いと管理 合着・接着材料	ポリカルボキシレートセメント・レジンセメント	
10	主要歯科材料の種類と取扱いと管理 印象用材料	アルジネート印象材・寒天印象材	
11	主要歯科材料の種類と取扱いと管理 印象用材料	ゴム質印象材・酸化亜鉛ユージノール印象材・モデリングコンパウンド	
12	主要歯科材料の種類と取扱いと管理 歯冠修復用材料	グラスアイオノマーセメント	
13	主要歯科材料の種類と取扱いと管理 歯冠修復用材料	コンポジットレジン・接着システム	
14	主要歯科材料の種類と取扱いと管理 仮封用材料	種類・用途	
15	試験	前期試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	1
科目名	臨床検査法 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	非常勤講師		
使用教材	臨床検査　医歯薬出版							
科目概要	臨床検査法について概説すると共に臨床検査データの見方や、検査の準備、介助や補助、緊急時を含めた患者対応について学ぶ。							
実務経験と授業科目の関連	歯科医師、臨床検査技師の臨床経験を活かし、臨床検査法（生理機能検査、検体検査、病理学的検査 ）について概説すると共に臨床検査データの見方や、検査の準備、介助や補助、緊急時を含めた患者対応について説明する。							
到達目標	１．臨床検査の種類と目的を説明できる ２．検査の倫理と安全性を説明できる ３．臨床検査値の評価の重要性を説明できる							
評価方法基準	期末に筆記試験を行う。また、小テストと授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に６０点以上を得点した者に単位を認定する、８０点以上をA、７０～７９点をB、６０点に満たなかった者には再試験を課す。							
成績評価のフィードバック	担任を通じて成績優秀者を公表する。 不合格者については学籍番号のみを掲示する。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	臨床検査とは	臨床検査の意義、倫理、分類について	
2	バイタルサイン	バイタルサインの種類と意義について	
3	生理機能検査１	呼吸機能検査、血圧の測定について	
4	生理機能検査２	心電図検査、心臓に関する疾患について	
5	血液学的検査１	血液学的検査（赤血球）、採血方法について	
6	血液学的検査２	血液学的検査（白血球、凝固）	
7	微生物学的検査	微生物学的検査、炎症に関する検査について	
8	肝機能検査	肝機能検査について	
9	病理・画像検査	病理学的・画像検査の種類と意義	
10	口腔領域の臨床検査	う蝕、歯周病などの検査	
11	腎機能検査	腎機能検査の意義と種類について	
12	糖尿病、代謝内分泌の検査	糖尿病、代謝内分泌検査の意義と種類	
13	免疫血清学的検査	アレルギー、自己免疫疾患 輸血、腫瘍マーカー	
14	まとめ	まとめ	
15	試験	期末試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>2</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>3</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">栄養指導</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">非常勤講師</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">歯科予防処置論、歯科保健指導論、プリントを配布</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">栄養と食生活に関する基本的知識を習得し、ライフステージに応じた食生活指導の仕方について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">管理栄養士の実務経験を活かし、人間が生命を維持するために重要な栄養・食生活についてを解説し、食生活指導を行うにあたり必要な歯科衛生士としてのあるべき知能・技術・態度を高める指導を行う。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">１．栄養と食生活に関する基本的知識を習得する。
２．対象者の問題点を把握し、ライフステージと機能障害に応じた食生活指導を行う事が出来る。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">定期試験の点数ならびに出席点数の合計で60点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	歯科と栄養の関わり	講師紹介、訪問栄養食事指導と歯科	
2	国民の健康と栄養の現状	日本が抱える健康課題について	
3	栄養素の役割①	5大栄養素とその役割、働きについて	
4	栄養素の役割②	日本人の食事摂取基準について	
5	食生活と健康	望ましい食生活について	
6	食に関する指導	食品の成分と分類について 保健行動支援のための基礎知識について	
7	生活習慣病とは	生活習慣病の予防について	
8	生活習慣病と食事	歯科疾患と食習慣について	
9	ライフステージ 妊娠期、乳幼児期	妊娠期、乳児期の栄養摂取方法について	
10	ライフステージ 学童期、思春期	幼児期、学童期、青年期の 栄養摂取方法について	
11	ライフステージ 老年期	老年期の栄養摂取方法について	
12	摂食嚥下と食事	老年期における摂食と嚥下について	
13	食品と齲蝕誘発性	齲蝕誘発性、糖質の分類について 特別用途食品と保健機能食品	
14	まとめ	総まとめ	
15	試験	前期試験	

履修区分	必修	単位数	11	開講時期	後期	形態	実習	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	495	対象年次	2
科目名	臨床・臨地実習（Ⅰ） ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	金子　聖美		
使用教材	臨床実習HANDBOOK（クインテッセンス出版）							
科目概要	歯科衛生業務を修得するために、各実習施設などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を身につける。							
実務経験と授業科目の関連	歯科衛生士の実務経験を活かし、学生が実習を通じて歯科衛生士の業務内容の実際や資質を確認することを支援し、医療・福祉に関わる専門職としてのあるべき知識・技能・態度を高める指導を行う。							
到達目標	1.診療内容を理解できる。 2.適切な歯科診療補助ができる。 3.適切な歯科予防処置ができる。							
評価方法基準	実習態度、実習記録、実習先施設からの評価表をもとに総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。							
成績評価のフィードバック								
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	歯科衛生士の基本姿勢	時間の遵守 、自己の健康管理	
2	診療体系	診療前準備、および後片付け	
3		受付業務患者の受診準備	
4		患者の受診準備	
5		基本的診査器具の準備	
6		診査診断の補助	
7		診療の流れに応じた補助・介助	
8		使用器材の管理	
9		薬剤の種類、用途、保管方法	
10		消毒・滅菌方法	
11		医療廃棄物の取り扱い	
12	X 線撮影法	X 線撮影の準備と補助	
13	X 線撮影法	X 線写真フィルムの現像操作、整理及び保管方法	
14	頻用する歯科材料	歯科材料について	
15	感染予防対策	感染予防と患者への対応について	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>8</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">実習</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>360</td><td>対象年次</td><td>3</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">臨床・臨地実習（Ⅱ）</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">松島　真英</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">臨床実習HANDBOOK（クインテッセンス出版）</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯科衛生業務を修得するために、各実習施設などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を身につける。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科衛生士の実務経験を活かし、学生が実習を通じて歯科衛生士の業務内容の実際や資質を確認することを支援し、医療・福祉に関わる専門職としてのあるべき知識・技能・態度を高める指導を行う。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.診療内容を理解できる。
2.適切な歯科診療補助ができる。
3.適切な歯科予防処置ができる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">実習態度、実習記録、実習先施設からの評価表をもとに総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8"></td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
☐　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1		各実習先施設にて360時間の実習を行う	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>後期</td><td>形態</td><td colspan="2">実習</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>45</td><td>対象年次</td><td>3</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">臨床・臨地実習（Ⅲ）</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">阿部　博美</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">臨床実習HANDBOOK（クインテッセンス出版）</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">実習を通じて歯科衛生士の業務内容の実際や資質を確認し、医療・福祉に関わる専門職としてのあるべき知識・技能・態度を高める。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科衛生士の実務経験を活かし、学生が実習を通じて歯科衛生士の業務内容の実際や資質を確認することを支援し、医療・福祉に関わる専門職としてのあるべき知識・技能・態度を高める指導を行う。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.歯科医師からの指示内容を理解し、実践できる。
2. 歯科衛生士に必要なスクリーニングと検査ができる。
3. 資料やデーから歯科衛生士業務の内容を判断し、行動できる。
4. 医療安全管理に配慮した行動ができる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">実習態度、実習記録、実習先施設からの評価表をもとに総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8"></td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
☐　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1		各実習先施設にて45時間の実習を行う	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>15</td><td>対象年次</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">歯科材料学</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">非常勤講師</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">（最新 歯科衛生士教本　歯科診療補助論・歯科材料・歯科機器）プリント</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯科治療における歯科材料の特性や使用法、その応用性について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科医師の実務経験を活かし、歯科治療における歯科材料の特性や使用法、臨床での実際の治療を紹介しながら，将来の歯科医療における歯科材料及び機械・器具の方向付けにも言及し，その応用性について講義する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.歯科材料，機械と器具についての基礎的な知識を習得する。
2.各歯科用材料の材料学的特性や取扱い方について理解する。
3.各歯科用材料の管理方法，各歯科用機械と器具の取扱い方ついて理解する。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8"></td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	歯科治療とは	歯科治療の全体像	
2	印象材	歯科材料の分類①	
3		歯科材料の分類②	
4	合着材・接着剤	合着と接着の概念	
5		成形修復材料	
6		国試対策問題演習	
7		国試対策問題演習	
8		まとめ	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>後期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>3</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">総合歯科予防処置</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">西山　裕佳</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">教科書（最新 歯科衛生士教本　歯科予防処置・歯科保健指導）
プリント</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">歯周病予防処置,う蝕予防処置についての基本的知識を解説する。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科衛生士の実務経験を活かし、齲蝕予防管理と齲蝕発生因子を関連付け、歯周病予防処置についての基本的知識を解説する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.歯・歯周組織の検査について説明できる
2.使用機器・器具の種類と特徴を説明できる
3.メインテナンスの目的と評価について理解する
4.齲蝕と全身疾患の関連、フッ化物について説明できる</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	歯周病予防処置 歯・歯周組織の検査	動揺度検査	
2	歯周病予防処置 歯・歯周組織の検査	検査結果の評価	
3	歯周病予防処置 計画	歯周病予防計画	
4	歯周病予防処置 ｽｹｰﾘﾝｸﾞ・ﾙｰﾄﾌﾟﾚｰﾆﾝｸﾞ	使用機器・器具の種類と特徴	
5	歯周病予防処置 ｽｹｰﾘﾝｸﾞ・ﾙｰﾄﾌﾟﾚｰﾆﾝｸﾞ	操作方法	
6	歯周病予防処置 ｽｹｰﾘﾝｸﾞ・ﾙｰﾄﾌﾟﾚｰﾆﾝｸﾞ	シャープニング	
7	歯周病予防処置 歯面清掃・研磨	使用機器・器具・材料の種類と操作法	
8	歯周病予防処置 メインテナンス	目的・評価	
9	う蝕予防処置 基礎知識	う蝕と生活習慣・全身疾患の関連	
10	う蝕予防処置 評価と計画	う蝕のリスク評価・う蝕予防処置計画	
11	う蝕予防処置 フッ化物歯面塗布	使用薬剤の種類と取扱い・塗布法の分類と術式	
12	う蝕予防処置 小窩裂溝塡塞	塡塞材の種類と特徴・適応症・術式・実施上の注意	
13	う蝕予防処置 フッ化物洗口	使用薬剤の種類と取扱い・適応症・実施場所と洗口法・実施上の注意	
14	う蝕予防処置 フッ化物配合歯磨剤	フッ化物の種類・使用法	
15	試験	後期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>後期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>3</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">総合歯科保健指導</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">金子　聖美</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">教科書（最新 歯科衛生士教本　歯科予防処置・歯科保健指導）
プリント</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">口腔機能管理の意義と目的・種類・成長と発育についてや健康教育の要点について知識を深める。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科衛生士の実務経験を活かし、健康教育の在り方や誤嚥性肺炎の予防、在宅での口腔ケア、口腔機能向上のための口腔清掃の自立支援等，対象者の健康を維持するための知識について講義する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.生活習慣指導の要点と指導法について説明できる。
2.食生活指導における対象別指導法を理解する。
3.口腔機能管理の意義と目的・種類・成長と発育について説明できる。
4.健康教育の要点について理解できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	生活習慣指導 基礎知識	口腔保健と生活習慣・口腔保健と非感染性疾患	
2	生活習慣指導 指導の要点	生活習慣の把握・指導内容	
3	生活習慣指導 対象別の指導法	ライフステージ・疾患異常のリスクに応じた指導	
4	食生活指導 基礎知識	栄養素・食品	
5	食生活指導 基礎知識	食生活の概要・栄養、食生活と健康との関連	
6	食生活指導 指導の要点	栄養状態の把握・口腔衛生口腔機能との関連	
7	食生活指導 指導の要点	食生活・食事記録・食支援	
8	食生活指導 対象別の指導法	ライフステージに応じた指導	
9	食生活指導 対象別の指導法	配慮を要する者への指導	
10	口腔機能管理 基礎知識	口腔機能管理の意義と目的・種類・成長と発育	
11	口腔機能管理 評価	口腔機能の評価・歯科治療の要否	
12	口腔機能管理 機能障害別の指導法	摂食嚥下機能障害・発音・構音障害	
13	口腔機能管理 対象者別の指導法	ライフステージに対応した指導・配慮を要する者への指導	
14	健康教育 健康教育の対象	保育所、幼稚園・学校・事業所・保健所、市町村センター	
15	試験	後期試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>後期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>3</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">総合歯科診療補助</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">阿部　博美</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">教科書（最新 歯科衛生士教本　歯科診療補助論・歯科材料・歯科機器）
プリント</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">保存治療時や補綴治療時の診療補助に関する基礎知識やその基本的技術について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科衛生士の実務経験を活かし、歯科診療補助に関する知識やその基本的技術について、また臨床の場での対応能力等の基礎知識について講義する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.保存治療時の診療補助の基礎を習得する
2.補綴治療時、口腔外科治療時の診療補助についての基礎知識を習得する
3.矯正歯科、小児歯科、高齢者障害者治療時の診療補助についての基礎知識を習得する。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8"></td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	保存治療時の診療補助 前準備・窩洞形成	器材の取扱い・切削用器具器材の取扱い	
2	保存治療時の診療補助 直接修復・間接修復・漂白	直接修復・間接修復の器材準備と取扱い・生活失活歯の漂白	
3	保存治療時の診療補助 歯髄処置・根管処置	歯髄処置用、根管処置用器材・薬剤の種類と準備	
4	保存治療時の診療補助 外科的歯内療法	外科的歯内療法の器材と取扱い	
5	保存治療時の診療補助 歯周外科治療	歯周治療用器材・薬剤の種類と用途	
6	補綴治療時の診療補助 検査・印象採得・額関係の記録	各種検査の準備・印象採得、顎間関係の記録に用いる器材準備	
7	補綴治療時の診療補助 補綴装置の装着	有床義歯、クラウンブリッジの器材と準備	
8	口腔外科治療時の診療補助 抜歯・小手術・止血処置	抜歯用、小手術用、止血用器材の準備と取扱い	
9	口腔外科治療時の診療補助 縫合・麻酔・患者管理	縫合用器材の種類準備・局所麻酔時の器材薬剤の準備	
10	矯正歯科治療時の診療補助	器具器材・検査記録・装置の装着・装置の撤去	
11	小児歯科治療時の診療補助	小児の状態把握と対応・必要な器材薬剤の準備	
12	高齢者治療時の診療補助	対象者の状態把握と対応・口腔衛生、機能管理	
13	障害児者治療時の診療補助	対象者の状態把握と対応・口腔衛生、機能管理	
14	エックス線写真撮影時の診療補助 器具器材・口腔内撮影法	エックス線撮影の準備・二等分法・平行法・咬翼法・咬合法	
15	試験	後期試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	1
科目名	看護学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	斎藤美都江		
使用教材	歯科衛生士のための看護学大意（医師薬出版株式会社）							
科目概要	近年病院におけるチーム医療が推進され、歯科衛生士と看護師が協働する場面が増えた。それに伴い歯科衛生士が知っておくべき看護師の業務内容、看護の概念、基本的な看護技術や看護実務について講義する。							
実務経験と授業科目の関連	看護師の実務経験を活かし、歯科衛生士が知っておくべき看護の概念、基本的な看護技術や看護実務について解説する。							
到達目標	１．看護の歴史と概念を知る。 ２．歯科医療と関連して「看護」を理解できる。 ３．歯科衛生士としての患者への適切な接遇方法を知る。 ４．病院における歯科衛生士の役割を理解できる。 ５．歯科衛生士が知っておくべき看護技術と看護実務の基礎を理解できる。							
評価方法基準	前期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。							
成績評価のフィードバック	試験の結果および不合格者の発表は学科の規定に準ずる。試験に関する疑問点等への対応は、学生の希望があれば実施する。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	歯科衛生士の役割	医療チームの中の歯科衛生士	
2	看護の概念	看護の歴史・看護の対象・看護の役割	
3	看護技術	バイタルサイン①	
4	看護技術	バイタルサイン②	
5	看護技術	バイタルサイン③（演習）	
6	看護技術	高齢者や認知症患者への接し方	
7	看護の概念	戴帽式参加	
8	看護技術	妊婦・小児・障がい者への接し方	
9	看護技術	与薬に関する看護技術	
10	看護技術	栄養・口腔ケアに関する看護技術	
11	看護技術	安全と安楽、罨法、吸引および吸入に関する看護技術	
12	看護実務	救急時の看護/心肺蘇生法（演習）	
13	看護実務	主な疾患と看護①	
14	看護実務	主な疾患と看護②	
15	試験	試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>後期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">歯科衛生学科</td><td>配当時間</td><td>15</td><td>対象年次</td><td>3</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="4">高度医療</td><td rowspan="2">担当者</td><td colspan="3" rowspan="2">金子　聖美</td></tr>
<tr><td colspan="4">☑　実務経験のある教員による授業</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">適宜プリントを配布する。</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">審美修復の特徴や歯周組織再生誘導法、再生・再建術などの先端医療についての基礎知識を習得する。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">歯科衛生士の実務経験を活かし、審美修復の特徴や歯周組織再生誘導法、再生・再建術などの先端医療についての基礎知識を講義する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.歯周病と全身疾患との関連を説明できる
2.歯科インプラント治療における歯科衛生士の役割について概説できる
3.歯の漂白法の種類および治療の流れについて説明できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	働く意義	歯科衛生士として働き方	
2	審美歯科	ホワイトニング	
3	インプラント	最先端のインプラント治療	
4	禁煙外来	歯科医院での禁煙指導の実際	
5	無呼吸症候群	無呼吸症候群について	
6	高齢者歯科	これからの高齢化社会での歯科衛生士	
7	高齢者歯科	これからの高齢化社会での歯科衛生士	
8	全身疾患	口腔と全身疾患のかかわり	
9	歯周病と歯科衛生士	細菌学を学ぶ	
10	口腔外科	最先端がん治療	
11	口腔外科	手術において必要なこと	
12	訪問外来	訪問外来の実際	
13	訪問外来	訪問外来の実際	
14	就職するには	見学	
15	試験	後期試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	15	対象年次	3
科目名	口腔ケア摂食機能 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	非常勤講師		
使用教材	日本口腔ケア学会認定資格標準テキスト 問題と解説集 3級・4級・5級, 改訂版　口腔ケア基礎知識 口腔ケア4級・5級認定資格基準準拠							
科目概要	日本口腔ケア学会認定資格5級に合格するための知識を習得する。							
実務経験と授業科目の関連	歯科医師の実務経験を活かし、日本口腔ケア学会認定資格5級に合格するための知識と過去に出題された問題の解説をする。							
到達目標	日本口腔ケア学会認定資格試験の5級に合格する.							
評価方法基準	期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B,60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。							
成績評価のフィードバック								
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	口腔ケアの基礎１	口腔ケアの基礎知識	
2	口腔ケアの基礎２	口腔ケアの定義,口腔組織の加齢変化,口腔内の微生物	
3	口腔ケアの実践１	歯磨きと歯ブラシ	
4	口腔ケアの実践２	うがいと含嗽薬,嚥下障害	
5	口腔ケアの実践３	義歯と義歯を装着いしている人の口腔ケア	
6	口腔ケアの実践４	キシリトール,う蝕と歯周病の口腔ケア	
7	口腔ケアの実践５	片麻痺のある人の口腔ケア,出血傾向のある人の口腔ケア,口臭口腔乾燥のある人の口腔ケア	
8	口腔ケアの実践６	歯肉から出血のある人の口腔ケア	
9	試験	口腔ケア認定５級	
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	15	対象年次	2
科目名	社会人マナー □　実務経験のある教員による授業				担当者	非常勤講師		
使用教材	歯科　医療保障制度　㈱ソラスト							
科目概要	多様化、複雑化する医療、福祉の現場において患者様、利用者様、ご家族、業者などに対して目的・状況に応じた適切な言動を取るためのコミュニケーション能力を身につけるための知識について演習および講義する。							
実務経験と授業科目の関連	なし							
到達目標	1.医療・福祉の現場で求められる身だしなみや言動を身に着つける。 2.電話応対、受付事務、会計窓口での応対について理解する。 3.患者様の状況に応じた応対ができる。							
評価方法基準	期末に筆記試験を行う。また、授業態度、実技試験、出席状況を点数化し筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。							
成績評価のフィードバック								
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	医療保障制度　第1章	医療保険のしくみ　⑴医療保険制度	
2	医療保障制度　第1章	医療保険のしくみ　⑴医療保険の種類	
3	医療保障制度　第2章	医療保険のしくみ　⑴保険給付	
4	医療保障制度　第2章	医療保険のしくみ　⑴その他の保険給付	
5	医療保障制度　第3章	その他の医療保障制度　⑴公費負担制度と種類	
6	医療保障制度　第3章	その他の医療保障制度　⑵公費　生活保護法	
7	医療保障制度　第3章	その他の医療保障制度　⑶公費　難病法 感染者法	
8	医療保障制度　第3章	その他の医療保障制度　⑶労災保険　介護保険	
9	社会人マナー	学生から社会人へ　求められる人材とは	
10	社会人マナー	新しい世界は出会いから　感じのよい第一印象	
11	敬語の基本	復習	
12	指示の受け方		
13	恥をかかない冠婚葬祭		
14	まとめ	試験について	
15	定期試験		

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	30	対象年次	1
科目名	女性学 □　実務経験のある教員による授業				担当者	金子　聖美		
使用教材	なし							
科目概要	歯科衛生士としての知識や技術だけでなく、女性としてあるべき教養や身だしなみ、感性を身に付けるための講義をする。							
実務経験と授業科目の関連	なし							
到達目標	女性として、人として、内面から輝けるよう豊かな心の育成を目指す。							
評価方法基準	レポート、授業態度、出席率をもとに評価点を出し、総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。							
成績評価のフィードバック								
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	職業とは	働くということ	
2	多職種	福祉がおしえてくれたもの	
3	自分を知る・他人を認める	個性学	
4	身体つくり	ウオーキングレッスン	
5	プロの感動	劇団四季観劇	
6	仕事のやりがい	卒業生の話	
7	感性を磨く	フラワーアレンジメント	
8	感性を磨く	フラワーアレンジメント	
9	おもてなし	プロのウエディングプランナーとして	
10	自分を認める	書き下ろし	
11	自分を認める	書き下ろし	
12	可能性を広げる	歯科衛生士の大学教授の授業	
13	マナーを身につける	テーブルマナー	
14	マナーを身につける	テーブルマナー	
15	生と死を学ぶ	緩和ケア	

履修区分	必修	単位数	7	開講時期	後期	形態	講義	
開講学科	歯科衛生学科				配当時間	210	対象年次	3
科目名	総合臨床歯科学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	金子　聖美・阿部　博美 西山　裕佳 ・松島　真英		
使用教材	適宜プリントを配布する。							
科目概要	臨床歯科医学の各分野の知識や、歯科衛生士業務を正しく実践するための専門的な知識について学ぶ。							
実務経験と授業科目の関連	歯科衛生士の実務経験を活かし、歯科衛生士業務を正しく実践するための知識について講義する。							
到達目標	1.疾病の成立ち及び回復過程の促進について理解する 2.歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組について理解する 3.歯科衛生士とその業務について理解する 4.臨床歯科医学について理解する							
評価方法基準	期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。							
成績評価のフィードバック	担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	疾病の成立ち及び回復過程の促進 病因と病態	病因論・遺伝性疾患と先天性異常・循環障害・細胞組織の傷害	
2	疾病の成立ち及び回復過程の促進 病因と病態	増殖と修復・炎症・免疫異常と移植	
3	疾病の成立ち及び回復過程の促進 病因と病態	腫瘍・歯の発育異常・う蝕・象牙質セメント質の増生	
4	疾病の成立ち及び回復過程の促進 病因と病態	歯髄、根尖部歯周組織、歯周組織の病変	
5	疾病の成立ち及び回復過程の促進 病因と病態	口腔創傷の治癒・口腔粘膜、顎骨、唾液腺の病変	
6	疾病の成立ち及び回復過程の促進 感染と免疫	一般症状・観察方法・感染	
7	疾病の成立ち及び回復過程の促進 感染と免疫	免疫	
8	疾病の成立ち及び回復過程の促進 感染と免疫	化学療法・病原微生物とプリオン	
9	疾病の成立ち及び回復過程の促進 感染と免疫	口腔環境と常在微生物・プラーク	
10	疾病の成立ち及び回復過程の促進 感染と免疫	う蝕原因菌・歯周病原因菌	
11	疾病の成立ち及び回復過程の促進 生体と薬物	医療と薬物・身体と薬物・医薬品の分類・薬物の取扱い	
12	疾病の成立ち及び回復過程の促進 生体と薬物	中枢神経系作用薬物・末梢神経系薬物	
13	疾病の成立ち及び回復過程の促進 生体と薬物	局所麻酔薬・痛みと薬物・抗炎症薬	
14	疾病の成立ち及び回復過程の促進 生体と薬物	呼吸循環と薬物・血液と薬物・感染と薬物	
15	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 総論	概要・歯 口腔の機能	

回	単元	内容	備考
16	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 総論	歯 口腔の発育と変化	
17	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 総論	口腔環境・歯 口腔の付着物、沈着物	
18	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 口腔清掃	概要・口腔清掃用具・歯磨剤	
19	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 口腔清掃	洗口剤・ブラッシング	
20	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 う蝕予防	基礎知識	
21	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 う蝕予防	予防方法	
22	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 う蝕予防	フッ化物によるう蝕予防①	
23	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 う蝕予防	フッ化物によるう蝕予防②	
24	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 歯周病の予防	基礎知識	
25	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 歯周病の予防	予防方法①	
26	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 歯周病の予防	予防方法②	
27	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 その他の歯科疾患の予防	不正咬合の予防	
28	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 その他の歯科疾患の予防	口臭の予防	
29	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 その他の歯科疾患の予防	その他の歯科疾患・異常の予防	
30	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 歯科疾患の免疫と歯科保健統計	歯科疾患の指標	

回	単元	内容	備考
31	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 歯科疾患の免疫と歯科保健統計	歯科疾患の疫学	
32	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 歯科疾患の免疫と歯科保健統計	衛生統計の基礎	
33	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 歯科疾患の免疫と歯科保健統計	歯科保健統計	
34	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 地域歯科保健活動	基礎知識・地域歯科保健	
35	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 地域歯科保健活動	母子歯科保健・学校歯科保健	
36	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 地域歯科保健活動	産業歯科保健・成人、高齢者、要介護者、障害者歯科保健	
37	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 地域歯科保健活動	災害時の歯科保健・国際歯科保健	
38	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 環境・社会と健康	概要	
39	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 環境・社会と健康	人口・環境と健康・疫学	
40	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 環境・社会と健康	感染症・生活習慣と生活習慣病・食品と健康	
41	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 環境・社会と健康	地域保健・母子保健・学校保健	
42	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 環境・社会と健康	成人、高齢者保健・産業保健・精神保健	
43	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 保健・医療・福祉の制度	概要	
44	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 保健・医療・福祉の制度	法規	
45	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 保健・医療・福祉の制度	医療の動向	

回	単元	内容	備考
46	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組 保健・医療・福祉の制度	社会保障	
47	歯科衛生士概論 歯科衛生士とその業務	概要・歯科衛生業務	
48	歯科衛生士概論 歯科衛生士とその業務	歯科衛生業務の進め方①	
49	歯科衛生士概論 歯科衛生士とその業務	歯科衛生業務の進め方②	
50	歯科衛生士概論 歯科衛生士とその業務	医療倫理・医療安全・チーム医療	
51	臨床歯科医学 臨床歯科総論	全身疾患と歯科治療	
52	臨床歯科医学 臨床歯科総論	口腔内検査・口腔機能検査①	
53	臨床歯科医学 臨床歯科総論	口腔内検査・口腔機能検査②	
54	臨床歯科医学 臨床歯科総論	画像検査	
55	臨床歯科医学 臨床歯科総論	一般臨床検査①	
56	臨床歯科医学 臨床歯科総論	一般臨床検査②	
57	臨床歯科医学 歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	保存修復治療① 硬組織疾患の種類と検査法	
58	臨床歯科医学 歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	保存修復治療② う蝕治療の流れ・前準備	
59	臨床歯科医学 歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	保存修復治療③ 修復法の種類と特徴・窩洞	
60	臨床歯科医学 歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	保存修復治療④ 硬組織疾患の予防法・処置後のﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ	

回	単元	内容	備考
61	臨床歯科医学 歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	歯内療法① 歯髄疾患、根尖性周組織疾患の種類と病態	
62	臨床歯科医学 歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	歯内療法② 歯髄検査・歯髄保存療法	
63	臨床歯科医学 歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	歯内療法③ 歯髄除去療法・根尖性歯周組織疾患の治療	
64	臨床歯科医学 歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	歯内療法④ 根管治療に用いる器具器材・根管充填	
65	臨床歯科医学 歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	歯内療法⑤ 根未完成歯の処置・外科的歯内療法	
66	臨床歯科医学 歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	歯周治療① 歯周病の種類と病態・リスクファクター	
67	臨床歯科医学 歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	歯周治療② 歯周病と全身との関連・疫学による指数	
68	臨床歯科医学 歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	歯周治療③ 歯周組織検査・基本治療・抗菌療法	
69	臨床歯科医学 歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	歯周治療④ 歯周外科治療・根分岐部病変の治療	
70	臨床歯科医学 歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	歯周治療⑤ 口腔機能回復治療・歯周治療後の再評価	
71	臨床歯科医学 歯の欠損と治療	概要①	
72	臨床歯科医学 歯の欠損と治療	有床義歯①	
73	臨床歯科医学 歯の欠損と治療	有床義歯②	
74	臨床歯科医学 歯の欠損と治療	支台築造	
75	臨床歯科医学 歯の欠損と治療	クラウン	

回	単元	内容	備考
76	臨床歯科医学 歯の欠損と治療	ブリッジ	
77	臨床歯科医学 歯の欠損と治療	インプラント	
78	臨床歯科医学 顎・口腔領域の疾患と治療	顎口腔領域の疾患①	
79	臨床歯科医学 顎・口腔領域の疾患と治療	顎口腔領域の疾患②	
80	臨床歯科医学 顎・口腔領域の疾患と治療	顎口腔領域の疾患③	
81	臨床歯科医学 顎・口腔領域の疾患と治療	口腔外外科治療①	
82	臨床歯科医学 顎・口腔領域の疾患と治療	口腔外外科治療②	
83	臨床歯科医学 顎・口腔領域の疾患と治療	麻酔	
84	臨床歯科医学 顎・口腔領域の疾患と治療	全身管理とモニタリング・救命救急処置	
85	臨床歯科医学 不正咬合と治療	概要①	
86	臨床歯科医学 不正咬合と治療	概要②	
87	臨床歯科医学 不正咬合と治療	矯正歯科治療の流れ①	
88	臨床歯科医学 不正咬合と治療	矯正歯科治療の流れ②	
89	臨床歯科医学 不正咬合と治療	矯正装置①	
90	臨床歯科医学 不正咬合と治療	矯正装置②	

回	単元	内容	備考
91	臨床歯科医学 小児の理解と歯科治療	概要①　成長発育・機能の発達	
92	臨床歯科医学 小児の理解と歯科治療	概要②　情緒、社会性の発達・その他	
93	臨床歯科医学 小児の理解と歯科治療	小児の疾病異常	
94	臨床歯科医学 小児の理解と歯科治療	小児患者の評価と対応	
95	臨床歯科医学 小児の理解と歯科治療	小児の歯科治療	
96	臨床歯科医学 高齢者の理解と歯科治療	高齢社会	
97	臨床歯科医学 高齢者の理解と歯科治療	加齢変化	
98	臨床歯科医学 高齢者の理解と歯科治療	高齢者の歯科治療	
99	臨床歯科医学 高齢者の理解と歯科治療	通院困難者への対応	
100	臨床歯科医学 高齢者の理解と歯科治療	高齢者の摂食嚥下リハビリテーション	
101	臨床歯科医学 障害児者の理解と歯科治療	基礎知識	
102	臨床歯科医学 障害児者の理解と歯科治療	障害の種類と歯科的特徴①	
103	臨床歯科医学 障害児者の理解と歯科治療	障害の種類と歯科的特徴②	
104	臨床歯科医学 障害児者の理解と歯科治療	障害児者の歯科治療	
105	臨床歯科医学 障害児者の理解と歯科治療	障害児者の摂食嚥下障害とリハビリテーション	